

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

令和6年度 公益社団法人 信濃教育会
事 業 報 告 書

令和7年6月6日 理事会提案 令和7年6月6日 承認

令和7年6月24日 定時総会報告

I 概　　況

長引くロシアによるウクライナへの軍事侵攻、中東におけるイスラエルとパレスチナの紛争等により、今年も不安定な国際状況が続いた。国内においては、令和6年1月の能登半島地震、9月には同地域で豪雨災害も発生するなど、各地で様々な自然災害が起り、平穏な日常の有難さを改めて痛感している。

学校現場においては、GIGAスクール構想により、教育現場のハード面の充実に伴いデジタル化が一段と進み、ICT活用による学びのあり方が課題となっている。また、「令和の日本型学校教育」として示されている「全ての子どもの可能性を引き出す教育」の具現に向けた「個別最適な学び」と「他者との協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実践が求められている。一方、教員志願者の減少や学校現場の教員不足等が大きな課題となっている。教員のなり手を増やすためには、教職における満足感や達成感を広く発信していくとともに、「学校における働き方改革」の更なる推進が必要な状況にある。

信濃教育会では、公益社団法人として会員の「職能向上」と「相互扶助」を目標に設定し事業を推進してきた。特に、会員の実践や研修に対する自主性や主体性に応えていくために、信濃教育会事業への主体的な参加を重視した事業推進に努めてきた。信教全県研究大会の授業者・研究校の決定に当たっては、公募制として3年目を迎えたが、趣旨の理解が進み、応募者、応募校が増えてきている。また、「短期観察研修補助」や「自主的校内研修補助」「学び続ける教師への助成」への応募もこれまで以上に多くなった。今後も、会員の主体性・自主性に応えていけるような事業の企画や運営に努めていきたい。

信濃教育会の主体は、子どもたちと真摯に向き合い日々実践を重ねている教師である。信濃教育会の事業を推進するに当たっては、会員の要望を踏まえ、変化の激しい時代に対応した事業推進が必要である。また、新たな時代の信州教育を考えたとき、一人一人の教職員が、求め、集い、自主的に学び続けるために存在する信濃教育会の果たす役割は大きい。そのためにも、学校教育に携わっている多くの教職員に入会を呼びかけるとともに、会員が主体性を發揮して学び続けることができる事業推進に取り組んでまいりたい。

＜ 公益目的事業 ＞

一 職能研修事業

1 研究調査

現下の教育課題や学校の喫緊の課題に応えるために6つの研究調査委員会（内3委員会は公募）を設置し、研究調査や実践研究を行った。その成果は各学校の授業や実践研究に生かされた。

福祉教育資料研究調査委員会は、取材協力校と連携し、「小学生ボランティア新聞」「中学生ボランティア新聞」を編集した。

また、今日的な教育課題に対する情報発信として、オンラインによるアフタヌーンセミナーを行った。

2 信濃教育会教育研究所

県教育委員会より派遣された研究員6名（78期研究員）が入所し、2つのテーマによる研修を進めた。1年次・2年次の各研究員は、それぞれのテーマを柱とし自分の実践を振り返り、自己課題を明確にする「振り返り」と他の研究員との「学び合い」により、教育上の諸問題の研究と解明に取り組んだ。特任所員からは、研究員へ指導助言をいただくとともに、広く教職員を対象とした土曜公開講座などを通して新たな教育課題等についても示唆をいただいた。また、研究先進校視察や今日的な課題解決にかかる講座に参加し学びを深めた。

78期研究員の成果の発信として、「研究紀要（第29巻）」を編集・刊行した。研究発表会は6・7月に、県内2地区（中南信・東北信）で対面開催、加えてオンラインで3回開催した。194名の参加があり、77期研究員の研究成果を学校現場へ還元した。

3 講習・講座

令和6年度は、講習・講座によっては運営委員会をオンラインで開催したところもあったが、対面で実施することができ、参加者の専門性や教養を培った。

信州教師塾Aは、対面とオンライン参加あわせて第1回144名、第2回98名、第3回と第4回は対面での実施であわせて15名の参加があった。また、郡市教育会と共に信州教師塾Bは、1回に50名近い受講者を数えた会場もあった。『極意』伝承道場も4年目を迎え、16講座で65名の参加者により各講座1～6回程度行った。

また、常任委員会において、講師を招いての研修を3回行った。

4 教育研究大会

（1）第138回信濃教育会総集会北安曇大会

第138回信濃教育会総集会北安曇大会は、7月6日（土）、白馬村ウイング21において、北安曇教育会の協力のもとに開催した。大会の様子は、後日、映像をホームページにて会員限定で公開した。

次年度は、第139回信濃教育会総集会を佐久教育会の協力のもと、小諸市文化センターにて開催する。

（2）全県研究大会

授業研究者・研究校を公募（立候補、推薦）、24研究（個人型14、学校型10）により開催した。研究の自主性と独自性が担保され、かつ、共同研究者からの助言を受けながら自由に研究を進めることができた。開催校では、授業公開の仕方、研究会の持ち方など工夫が見られ、新しい研究の持ち方として有意義であった。大会の成果は「Booklet 信教」、信教ホームページで発信した。

参加申込みは、Google フォームから行った。参加者は、役員を含め延べ592名であった。

（3）信州“教育の日”（参画）

第21回信州“教育の日”山内大会が、11月16日（土）（11月第3土曜日）に開催された。分科会参加者は200名、コカリナ発表や物販活動に参加した小学生等を含めると約280名の参加者となった。今年度は、分科会方式を導入し、参加型の大会を志向した。地元で日頃から教育に携わっている方々と参加者による意見交換は、学校と家庭・地域社会が連携しながら教育の充実に努め、生涯学習社会の実現に取り組むというこの大会の意義を体感する貴重な機会となった。

5 研修・研究助成

（1）大会補助

第138回信濃教育会総集会北安曇大会及び信州“教育の日”山内大会に参加した会員に対し、旅費の補助を行った。また、全県研究大会の研究者及び会場校に対し、研究費等の補助をし、支援を行った。

（2）視察派遣助成

① 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会

複雑で予測困難な時代を前向きに受け止め、社会や人生、生活を人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしようとする子供たちの姿を思い描き、大会主題を「共助のこころでしなやかに生き

る日本人の育成」とし、教職員の働き方改革に伴う研修の在り方の一つとして、オンラインと参集のハイブリッド形式で研究大会を実施した。令和6年7月25日（木）・26日（金）にエスポワール愛媛文教会館を中心に開催された。信濃教育会からは、40名が参加し、全国の教育会の代表者と協議を深めた。

② 第47回長野県同和教育研究大会

「差別の現実から深く学び、暮らしを高め、豊かな未来を保障する人権教育を確立しよう」のテーマのもとに、令和6年9月19日（木）に実施され、長野県総合教育センターへ参集して研究を深めた。部落差別をはじめとしてあらゆる差別の撤廃に向けて、講演と実践発表を聴き、差別撤廃への意欲を高め、実践力を養った。信濃教育会からは、各都市1名ずつの15名の参加とした。

③ 第43次日中友好長野県教育者訪中団

新型コロナウイルスの感染状況に波があり不安な状況が続くため派遣を中止した。

（3）教育会研修助成

各教育会で行われた研究会や懇談会、研修会、集いなどに対し、経費を一部補助し、参加者の職能研修並びに各教育会の事業振興を支援した。

6 応募型研修助成

（1）短期視察研修補助、自主的校内研修補助、学び続ける教師への助成事業

「短期視察研修補助事業」は22校から30人の申込みがあった。「自主的校内研修補助事業」は、80校から申込みがあり、事業に参加した学校からは大変好評であった。補助事業を受けた会員からは、補助事業を利用したこと、希望する研修に踏み出すことができた等の感想が寄せられた。また、「学び続ける教師への助成事業」のうち、「学術的な研究調査に励む教師への助成」事業へは、12校12人から申し込みがあり、「子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成」事業へは、11校19人から申し込みがあった。自然科学や歴史分野における専門的な研究調査を積み重ねてきたり、総合的な学習の時間等を使い探究的な学びを実現しようと工夫してきた会員や会員の在籍する学校からは大変好評で、次年度も継続を願う声が多く寄せられた。

（2）教育研究論文・教育実践賞、及び教育研究団体補助

教育研究論文・教育実践賞は「会員の職能向上」と「本県教育の刷新と充実」の気運を高める目的で行われ、112篇の応募があった。この事業に対する会員の関心の高さが伺われた。教職員の資質の向上のために、今年度の総集会では個人とグループの特選受賞者にパネルディスカッションのパネリストとして参加していただくと共に、雑誌『信濃教育』に掲載した。また、今年度も入選受賞者の他、教育研究団体や公募によりポスターセッションで発表し参加者と実践内容について有意義な意見交換が行われた。

県内の教育研究団体との教育懇談会を昨年に続いて開催し、会員数確保（増）の取組や信濃教育会との連携について情報交換を行った。そして、22の教育団体（同好会など）に研究助成し、「共に学び合う」意識の高揚と教科等の専門性に関する教師の意識、授業力の向上を図る取組を支援した。

7 教育推進懇談会

関係する機関・団体と意見交換や情報交換を行い、事業の推進と充実に役立てることができた。

8 生涯学習の振興・支援

学生、教育研究団体、公益を目的にする県民への会議室や展覧会の会場貸与を行った。また、講習・講座及び研究大会の公開等を行い、学校教育、人材育成、社会教育など生涯学習の振興に寄与した。

二 教育・学術図書の研究調査事業

1 教育図書研究調査

(1) 教科用図書

自然や季節・生活など、信州の身近な自然の教材化や具体的な授業実践・事例研究及び教科用図書の研究を進め、教師としての専門性を高めた。また、その成果を教育現場に発信した。

① 理科学習帳は、児童が「学ぶ楽しさと学びの豊かさを広げること」や「学習を深めること」に重点を置くとともに、理科指導の経験が少ない教師にもわかりやすいものになるよう、指導の要点や留意事項について検討を重ねてきた。また、令和6年度版の改訂に向けて、基本の方針や構成について検討し、3～6学年上巻の発行、下巻の原稿審議を重ねてきた。

昨年度、執筆編集した「理科の教室」99号は、年度当初に発行し、県内小・中学校に無償配布した。100号は記念特集号として外部研究者の寄稿も含め、理科教科書の歴史や編纂に携わった理科教師に焦点を当てた特集を予定している。

② 生活科では、本部委員による授業実践や各ブロックの実践から、令和6年度版生活科教科書の実践研究に基づく新教科書への課題の検討を行った。また、次期教科書・指導書編集に向けて、実践事例・記録・写真・資料などの収集を行った。

「ふるさとの大地」編集については、第28号の編集を行った。特集編集テーマを「やってみよう」とし、生活科・総合的な学習の時間の「立ち上がり」について掲載した。

これらの編集を通して信州の生活科・総合的な学習の時間のあり方について発信するとともに、教師の専門性・同僚性を高めることができた。

(2) 夏休み帳、冬休み帳

学校や保護者等の要望や願いを生かしつつ、基礎学力の定着や家庭での学習習慣の育成に寄与できる休み帳を目指し、研究・調査を行った。児童にとって魅力的な内容や使いやすさ等を考慮した休み帳になるよう、また教科書の採用や改訂に対応できるよう、内容の変更や問題の修正を行った。今年度から、夏休み帳と冬休み帳のそれぞれを隔年で編集するようにした。今年度は令和7・8年度使用の夏休み帳の編集を行った。来年度は令和8・9年度冬休み帳の編集を行う。

(3) 高等学校農業学習書

部分的な修正を行った令和2年度用の「バイオテクノロジー基礎」、3年度用の「畜産実験実習必携」を用いて実践研究を行った。実際の指導場面から生徒の実態や記録を集積するとともに、最新の技術やデータの資料収集を行うなど、年次進行による学習指導要領の改訂に備えて準備を進めてきた。

(4) 信州の教師 基礎基本

教師として身につけておきたいマインドや授業の基礎基本、信州教育として大切にされてきた子ども観や授業観をもとに、教師としての夢を育むことのできる本の編集に取り組んだ。原稿が完成したので、編集のための委員会は今年度限りとした。次年度は監修者と委員長で校正を行い、令和7年度に「信州の教師 基礎基本」の本を発刊する。

(5) 理科手引書

初任者や理科指導の初心者にもわかりやすい手引書になることを目指し、教科書と指導書、児童の学びと教師の指導をつなぐことをコンセプトに編集作業を進めてきている。単元に則した「授業のポ

イント」をふまえ、植物教材の栽培スケジュール、実験器具や薬品管理など、一年間を見通した理科学習の環境整備に関する内容の検討を行った。また、タブレットの活用や「自由進度学習」について、委員による授業公開とともに授業研究会を開催し、研究を深めることができた。

(6) 秘伝「信州教育の極意」

現役の教師が、「信州教育」の潮流を生み出してきた先人の言葉を訪ね、3年間かけて文献を研究し、自らの教育経験に重ねて執筆をしてきたものを、令和6年度は6名のチームリーダーが委員として残り、最終校正を行い、12月12日の発刊に至った。

2 学術図書編集発行

学術図書・機関誌としての情報提供や教育研究資料の累積、会員の資質の向上、地域の生涯学習などへの寄与を願って雑誌『信濃教育』を編集・刊行した。明治19年創刊以来、日本一長寿の月刊学術図書として139年間休みなく発刊している。昨年度末で2年間掲載した「リレーエッセー」が終了。今年度より宮下健司先生の連載「信濃の国探訪—信濃の時を刻む景観とかたち」が新しく始まった。

3 図書教材研究

図書教材研究協議会及び図書教材アンケートにより、各種図書教材の改善・充実を図ることができた。

三 生涯学習振興事業

1 信濃教育博物館

教育資料と郷土資料の調査研究、収蔵と整理を行い、教育関係者並びに一般の閲覧・利用に供するとともに、信州教育の研究に貢献した。また、牛山栄世先生からの寄贈資料をもとに「牛山栄世先生遺稿集」を編集するための委員会を組織し、研究調査に取り組んだ。

「今を生きる子どもの絵展」の絵画の募集、表彰、収蔵、展示を通して児童・生徒の感性を高め、教職員の図工美術指導の充実を図った。作品応募数5,000点から永年保存作品数を155点選出し、入選者への永年保存証授与は関係者の励みとなった。

2 信濃教育会生涯学習センター

県民と共に歩む生涯学習の推進を目標に、「哲学へのいざない—言葉と沈黙—」（講師 京都大学名誉教授 藤田正勝先生）の講座を実施した。本年度は講師の藤田先生を会場にお招きし、会場内の参加人数を制限した上で、オンライン参加も含めて開催した。会員・県民75名が受講し、人間的な生き方や感性を共に磨き合った。

生涯学習支援事業では、信州あづみ野生涯学習塾塾生や地域の人たちを中心に、共に学び合う生涯学習の拡大・充実を支援した。事業への参加者は延べ1,086名であった。

< 収益事業など >

四 災害見舞金事業

会員の相互扶助の精神をもとに、会員の死亡、高度障害、災害入院、災害通院、自然災害に対する見舞金支給を行い、会員の「安心・健康」に寄与した。令和6年度支給状況は死亡1名、高度障害0名、後遺障害0名、災害入院15名、災害通院39名、自然災害（不動産の損害）3件であった。制度発足からの受給者は延べ980名となった。

五 出版・不動産貸与事業

出版事業は、教育関係諸機関等の要望に応え『長野県学事関係職員録』を出版し、教育活動の円滑な推進に寄与した。

また、校務の効率化を図るため、週指導案簿、出席簿など12の諸表簿の研究調査・編集を行った。

不動産貸与事業は、信濃教育会館及び土地の一部を教育関係団体へ貸与し、各団体の事業推進を支援した。また、利用者の福利厚生のため自動販売機の設置を行った。

六 広報・運営

信濃教育会の事業運営の伝達と報告、会員の情報発信・共有を図るために会報（1103号～1113号）を発行した。また、ホームページを活用し、会員への情報提供や信濃教育会の意義や事業内容の周知を図った。また、フェイスブック、インスタグラム、YouTubeを活用した情報提供を増やすとともに、メール受信を希望する方に、信濃教育会の研修等の案内を直接情報提供するようにした。

II 事業活動

一 職能研修事業

1 研究調査

(1) 現場の課題に応える研究調査

現下の教育課題や学校現場が抱える喫緊の課題に応えるために委員会を設置し、研究調査や実践研究を行った。委員会ではそれぞれの課題を究明し、その成果の一端を教育情報誌「Booklet 信教」にまとめ、各学校に配布するとともにホームページでも発信した。こうした取組は日常の授業改善などに生かされている。

これらの研究調査や実践研究は委員一人一人の資質の向上につながるとともに、委員が学校へ戻って行った実践等は教職員の資質向上へつながっている。

各委員会の実施内容は次のとおりである。

① 全県研究大会研究調査委員会 委員15名 4回（内オンライン2回）

ア ベースとなる授業観『「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』を基に、全県研究大会の運営、研究への支援を行った。

イ 大会への参加の働きかけを各都市で行った。また、次年度の授業者や研究校の募集についても同様に行なった。

ウ 「Booklet 信教」を年8回発行。公立小・中・特別支援学校・義務教育学校、教育機関に無償配布した。また、個人購読希望にも応えた。

② I C T研究調査委員会 委員8名（公募） 7回

「これからの中学校に必須となる I C T 教育についての研究とその啓発に寄与する情報の発信」を踏まえて、7回の委員会をオンラインで開催した。信州大学教育学部の佐藤和紀准教授に助言いただきながら委員の勤務校での実践、情報交換等しながら学び合うとともに、先進校視察を行った委員からの報告をもとに研究を深めた。第8回委員会をアフタヌーンセミナー（視察報告）として公開した。

③ 「探究的な学び」研究調査委員会 委員16名（内公募1名） 2年継続の1年目 5回

「中学校における総合的な学習の時間がより探究的な学びとなるよう研究調査する」ことをねらいとし、5回の委員会（2回オンライン）を開催した。講師として、第1回は慶應義塾大学SFC研究所上席所員の市川力氏、第2回は信州大学教育学部の伏木久始教授、第3回は箕輪町教育委員会指導主事の安積順子氏をお願いした。第4回は全県研究大会の公開授業（長野中学校）を参観し、オンラインで意見交換した。第5回は1年間のまとめとして研究の成果と課題について協議した。委員は各校で探究的な学びの推進について中心的な役割を担っている教員ばかりである。委員の研究テーマをもとに、講師の指導や助言、委員間の意見交流等を中心に研究を深めた。1年目のまとめとして各自成果と課題をレポートにまとめた。

④ 「新しい時代の教育」研究調査委員会 委員16名（内公募1名） 4回

社会の変化に伴い学校のあり方にも変化が求められていることから、新しい時代の教育はいかにあるべきかを研究調査し学校現場に発信することを目的に開催した。信州大学准教授荒井英治郎氏からは「教育法規や制度」について、日置電機人事部長小林亜希子氏からは「企業の人材育成」について、「こたえのない学校」代表藤原さと氏からは、「世界の教育事情と探究する学び」について、信州大学准教授森下孟氏からは、「これからの中学校」について、長野県教育長武田育夫氏からは、働き方改革や不登校、特別支援教育などの諸課題について、それぞれ講義やグループワークなどを通じて学ぶことができた。最終回は、筑波大学名誉教授伊藤純郎氏からの「信州教育の歴史と特色」についての講義と、新しい時代の教育についてのディスカッションを行った。いずれの会において

も、意欲的に協議や意見交換が行われ、充実した委員会となった。

⑤ 防災教育研究調査委員会 委員12名 7回

地域と学校がつながり、子ども自らが創り出す防災教育モデルについて、各委員の学校で実践に取り組み、成果と課題を整理した。

⑥ 日本連合教育会長野大会研究調査委員会 委員28名 4回

全体のアドバイザーを信州大学教育学部の茅野公穂教授にお願いした。また、令和8年度開催の日本連合教育会研究大会長野大会に向け、各分科会の「研究協議題」・「研究協議題設定の理由」・「研究協議の視点」、それぞれの案を作成し、日連教の理事会へ提出した。さらに、各分科会への提出レポート作成に向け、委員会全体や分科会ごとにレポートの構想やその内容を協議した。

(2) 福祉教育資料研究調査

福祉教育資料研究調査委員会では、長野県社会福祉協議会と連携して、県内各地の小・中・特別支援学校などの福祉教育や交流活動を紹介し、児童・生徒のボランティアに対する意識を高めるための研究調査を進めてきた。取材協力校委員は委員会での研究を受けて、福祉教育資料「小学生ボランティア新聞」「中学生ボランティア新聞」の取材を行った。新聞の体裁については、取材協力校2校の紹介を全面に取り上げ、より大きく見やすいレイアウトに変更した。これまでの福祉教育に関する資料は、デジタルデータとしてホームページで紹介し広く活用できるよう配慮した。ボランティア新聞は、長野県社会福祉協議会を通して、県内全ての小・中・特別支援・義務教育学校や公民館等の公的機関などに配布した。

なお、福祉教育の理念のもと、会員の社会貢献に対する意識の高まりを受け、信濃教育会として年間を通して「フードドライブ」の活動に取り組んだ。

福祉教育資料研究調査委員会 本部委員7名 委員会回数 年5回

取材協力校委員8名 委員会回数 前期2回・後期2回

前期：中佐都小（佐久） 森上小（上高井） 中川中（上伊那） 野沢温泉中（中野・下高井）

後期：長沼小（長野上水内） 才教学園小中（松本市） 岡谷西部中（諏訪） 穂高東中（安曇野市）

(3) 今日的な教育課題に対する情報発信

オンラインによるアフタヌーンセミナーを8回実施し、のべ238人が参加した。

2 信濃教育会教育研究所

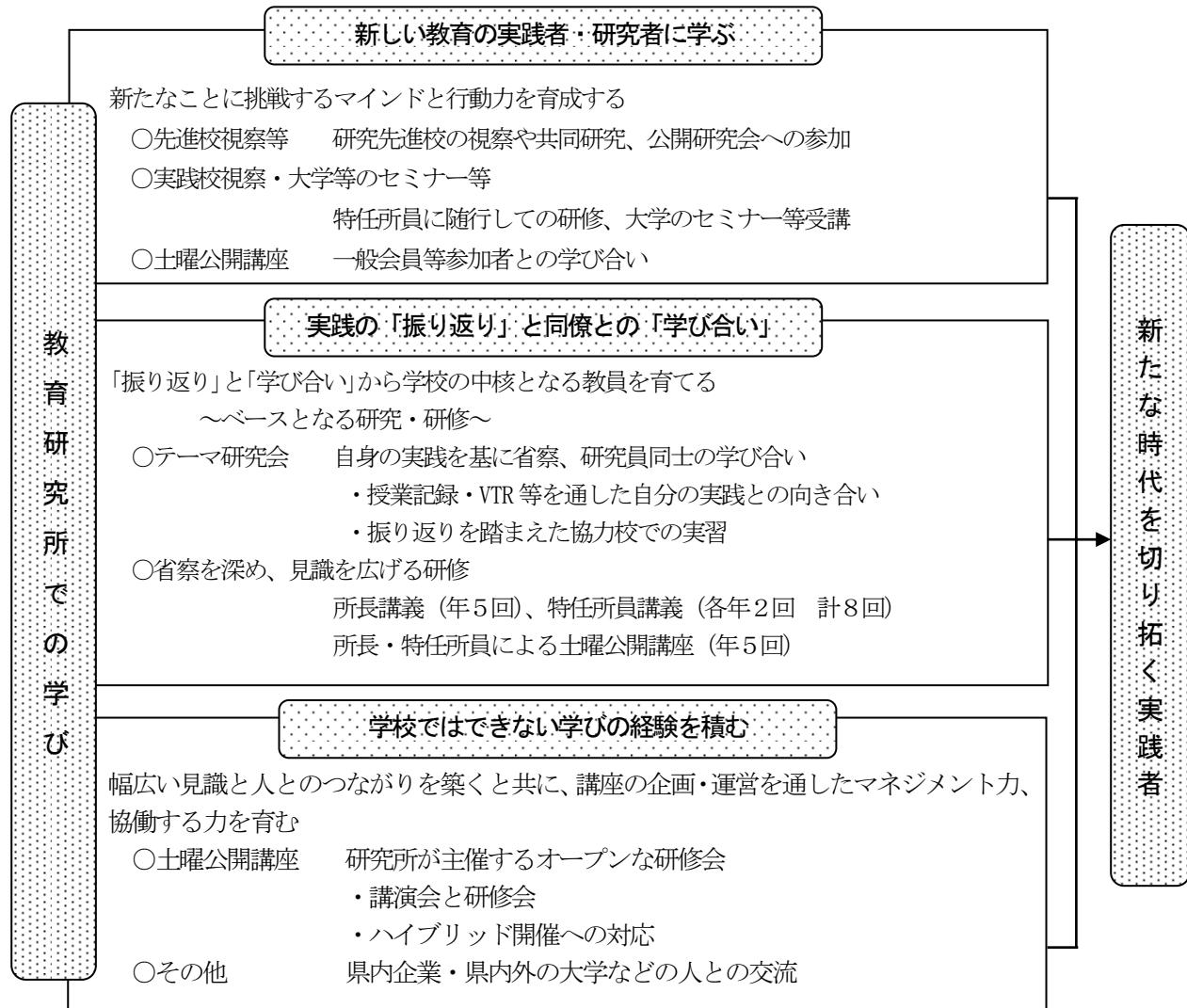
信濃教育会教育研究所は、昭和22年全国に先がけて教育会によって自主的に運営される研究所として創立された。以来78年にわたり、教育上の諸問題の実践的研究と現職教育の場として、これまで757名の教師が学んできている。

(1) 研究員への指導・助言

長野県教育委員会が公募、選考し、本研究所に研修派遣した第78期研究員（6名）、及び第77期研究員（6名）の研究について指導・助言を行った。

教育上の諸問題の実践研究と現職教育の場として、教師が自分の実践を振り返り、自らの課題を明確にするとともに、他の研究員と学び合いながら研究の基盤を培った。また、視察、セミナー参加や実習などを通して学校現場の課題に即した研修に取り組んだ。

① 研究体制



② 研究の内容（テーマ、研究の視点）

- 第1テーマ 「教師と子ども、子ども相互の関係づくり」
- 第2テーマ 「子どもの学びが深まる授業づくり」
- 第3テーマ 「今日的な課題に対応する多様な学び」

（2）研究成果の還元並びに現場との交流

① 研究発表会

研究協議では、教育実践をめぐる視野の広がりと深まりが見られた。また、参加者からは「グループ討議で行ったので、参加者（特に初任者）が意見を出しやすかった」等の声があった。

本年度より、信濃教育会館と生涯学習センターの2会場で対面開催、3回オンライン開催に変更した。

地区・開催方法・発表者	開催日	会場	参加者数
中南信・対面・77期生6名	6月15日（土）	信濃教育会生涯学習センター	42名
東北信・対面・77期生6名	7月13日（土）	信濃教育会館	50名
オンライン①・77期生2名	6月20日（木）	各学校	33名
オンライン②・77期生2名	6月26日（水）	各学校	44名
オンライン③・77期生2名	7月2日（火）	各学校	25名
合 計			194名

② 土曜公開講座

研究員が所長及び特任所員と共に、参加者の授業実践や困り感を通して学び合い、教職員としての職能向上を図るとともに、教育研究所と学校現場との交流を深めた。第2回はオンライン開催、その他の4回はハイブリッド開催で行った。

	期 日	会 場	講 師	参加者数
第1回	5月18日(土)	信濃教育会館	佐伯 肇 所長	46名
第2回	9月 7日(土)	各学校等	松木健一 特任所員	30名
第3回	9月28日(土)	生涯学習センター	岩川直樹 特任所員	33名
第4回	10月26日(土)	信濃教育会館	高柳充利 特任所員	9名
第5回	12月14日(土)	信濃教育会館	奈須正裕 特任所員	50名

③ 「研究紀要第29巻」の発行

研究の成果と足跡を記録としてとどめるとともに、教職員の教育実践に寄与するために、第77期研究員の実践研究論文を編集して研究紀要を発行した。

- ・各学校他、教育関係機関への配布

④ 1年次研究員の研修・研究

- ・所長講義 テキスト：『「教育する」とはどういうことか』(研友会会報『研友』第63号より)

『現代の教師論』『ビデオによるリフレクション入門』

『「わかり方」の探究』『子どもの遊びを考える』

- ・特任所員講義 全10回

- ・テーマ研究会 全10回

- ・読み合わせ、輪読会 等

読み合わせ会（9回）(『信州総合学習の源流』)

淀川遠足（淀川茂重の足跡をたどる所外研修）

輪読会（9回）(『正法眼蔵入門』)

- ・県内外研究先進校への視察（5月～12月、全28校）

- ・協力校での授業参観（6月～9月）・実習（10～11月）

- ・各種研究会等への参加（委員会や講習・講座、全県研究大会、福井ラウンドテーブル 等）

⑤ 2年次研究員の研修・研究

- ・2年次実践研究会（6回）、「新しい時代の教育」研究調査委員会参加（4回）

⑥ 研究所運営委員会 委員16名、年4回開催（内オンライン2回）

⑦ 長野県教育委員会・市町村教育委員会連絡協議会・県小中校長会との懇談会 9月2日(月)

(3) 教育相談・校内研修支援

① 子どもや教師の指導にかかわる相談

② 校内研究・研修の支援

土曜公開講座の語り合いの場において、悩みを語り合ったり、相談に応じたりした。

3 講習・講座

(1) 臨地講習・基礎講座・生涯学習講座

教師としての専門性（授業力の基礎）を磨くとともに、人間性の向上を図り、地域ともどもの生涯学習の機会とするために以下の講習・講座を計画した。

講習・講座によっては運営委員会をオンラインで開催したところもあったが、講習や講座自体は対面で実施することができ、参加者の専門性や教養を培った。

実施した講習・講座は次のとおりである。

講習・講座名	期日	開催会場	講師(敬称略)	実施状況
信濃の国探訪	8月 1日(木) ～2日(金)	北信 飯山地域	宮下 健司 (元 長野県史常任編纂委員)	31名
信濃の自然 めぐり	8月 7日(水)	白樺湖	八ヶ岳アドベンチャーツアーズ スタッフ	31名
ホースセラピー	6月 29日(土)	木曽 開田高原	おんたけウェルネスラボスタッフ 木曽馬の里 中川 剛 木曽養護学校・開田小学校の先生	27名
ALT とめぐる シン松本城	8月 2日(金)	松本城とその周辺	ALT 8名 アルプス善意通訳協会 8名	20名
合唱	5月 11日(土)	諏訪市文化センター	藤原 規生 (声楽家、合唱指導者)	48名
一から学ぶ 書写	8月 6日(火)	佐久市浅間会館	市澤 静山 (信州大学名誉教授・日展会員) 坂田 和弥 (前県書写書道教育研究会会長) 小池 勲 (県書写書道教育研究会会長)	32名
オーケストラ	5月 25日(土) 6月 29日(土)	生涯学習センター	寺島 克彦 (前小諸高等学校校長) 木村 美音子 (洗足学園音楽大学講師)	53名
理科観察・ 実験講習会	7月 31日(水) 8月 2日(金) 6月 29日(土) 8月 8日(木)	東信 上田創造館・千曲川 南信 茅野市市民の森 中信 美ヶ原 (王ヶ頭・王ヶ鼻・三城) 北信 信大教育学部	竹下 欣宏(信大准教授) 井村 悅子(NPO代表者) 原山 智(信大名誉教授) 一ノ瀬浩子(松本市教育文化センター) 藤森 隼一(信大助教)	19名 23名 31名 15名
美術	8月 5日(月) ～7日(水)	信濃教育会館	上田 秀洋(信州大学名誉教授)	31名
生涯学習講座 哲学の道	10月 19日(土)	信濃教育会 生涯学習センター *ハイブリッド開催	藤田 正勝 (京都大学名誉教授)	対面 50名 オンライン 16名
信州教師塾A	5月 25日(土) 7月 28日(日) 11月 9日(土) 1月 18日(土)	信濃教育会館 *ハイブリッド開催 信濃教育会館 信濃教育会館	長野県教育委員会主幹指導 主事 信濃教育会部長	144名 98名 13名 2名
信州教師塾B	各郡市1～3回	郡市教育会館	民間の専門家1名 信州大学教育学部教官6名	696名
信州教師塾S	10月 5日(土) 10月 26日(土)	上田市 山形村	信濃教育会部長 林 和男、高野 嘉敬	19名 13名
「極意」 伝承道場	年間1～6回	指導者の学校 受講者の学校 等	指導者16名	65名
産育休者対象 セミナー	1月 23日(木)	*オンライン開催	信濃教育会部長 産育休経験の現場教諭3名	25名
オンライン カフェ	8月 29日(木)	*オンライン開催		37名
諸研修	常任委員会にて 5月 9日(木) 6月 13日(木) 11月 26日(火)	信濃教育会館	伊藤 純郎(筑波大学名誉教授) 山田 真治(松本短期大学教授) 日色 保 (日本マクドナルドホールディングス社長兼CEO)	常任委員、 研究所研究員ほか

4 研究大会事業

(1) 第138回信濃教育会総集会北安曇大会

本年度の総集会は、白馬村ウイング21を会場として実施した。

- ① テーマ 信州教育の創造～未来を拓く職能の向上～
- ② 開催方法 今年度は参考のみとし、後日総集会の内容をホームページに掲載した。
 - ・会場参加者 460名(会員360名、来賓・役員等100名)
- ③ 内容

ア パネルディスカッション

テーマ 信州教育の明日を拓く～児童・生徒が主体となる学校とは～

パネリスト	駒ヶ根市立東中学校	仙波 歩 教諭
	大町市立大町北小学校	臼井 敬子 教諭
	信州大学教育学部教職大学院	尾臺 美彰 准教授
コーディネーター	箕輪町立箕輪中学校	藤井 篤徳 教諭

イ ポスター発表

教育研究論文・教育実践賞の入選者(個人・グループ)及び希望者による発表14組

ウ 講演 講師 原田 雅彦 氏 雪印メグミルクスキーポアドバイザー

演題 私とスキージャンプ

エ 演奏会 演奏 信濃教育会オーケストラ

指揮者 木村 美音子 信濃教育会オーケストラ常任指揮者

(洗足学園音楽大学講師)

演奏曲目 J・シベリウス作曲「カレリア」組曲 作品11

北安曇・安曇野市教育会合唱団による合唱「信濃讃歌」

(2) 全県研究大会

研究大会のコンセプトは「授業者、研究校の公募」「指導者に替わる共同研究者」「自主性、独自性のある研究」とした。『ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』を据えて24研究(個人・グループ型14、学校型10)を公開した。研究大会には、役員を含め延べ592名が参加した。コンセプトを一新して3年目を終え、研究会の持ち方には、それぞれの工夫が見られ、パネルディスカッション形式(共同研究者も交えて)やシンポジウム形式(生徒や地域のかたも交えて)も行われた。これから研究会のあり方を考える機会として定着してきた。課題としては、共同研究者との関係性の難しさ、都市ごとの参加者のばらつき、研究者や授業校の立候補数の差などが挙げられる。全県研究大会の成果と課題を明らかにして、さらに新しい方向を考えていくきっかけとしたい。

研究の成果は「Booklet信教」にまとめ、県内の公立小・中・特別支援学校・義務教育学校に無償配布した。

実施における基本的な立ち位置および実施状況は次のとおりである。

- ① 『ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業』
- ② 授業者、研究校の公募(立候補、推薦)による決定
- ③ 自主性、独自性に基づく自由な発想による研究と共同研究者との連携
- ④ 新しい方向性を示す、授業公開と授業研究会の実施
- ⑤ 全県研究大会の成果の発信のための情報誌「Booklet 信教」の発行、HPへの掲載

※各会場の実施状況（公開日順）

公開日	授業者・研究校／共同研究者／○テーマ	参加者
10/17 (木)	研究グループ（富草小学校）／宮下昭夫（信大附属松本地区統括長） ○子どもの思いから問い合わせが生まれ学びが深かまる総合的な学習	13名
10/28 (月)	信濃遊学会（屋代中学校）／村瀬公胤（麻布教育ラボ 所長） ○遊びながら学ぶ～本質へ誘う教師の問い合わせ～	9名
11/1 (金)	浅科中学校／北澤嘉孝（信大附属長野地区統括長） ○新たな自分の問い合わせを生み出す探究総合	17名
11/5 (火)	小椋裕太（高森南小学校）／谷塚光典（信州大学 教授） ○主体的で対話的な学びが生まれる環境づくり	7名
	長野市立長野中学校／齋藤博伸（国立教育政策研究所） ○問い合わせから始まる探究学習のあり方	14名
11/6 (水)	松代小学校／岩川直樹（埼玉大学 教授） ○「対話」「寄り添い」をとおした主体的・協働的な学びの表現	44名
11/8 (金)	三本柳小学校／岡野 昇（三重大学 教授） ○自ら学び続ける力を育むための授業づくり	10名
	赤穂南小学校／宮島 新（長野市立城山小学校教諭） ○対話をしながら学ぶ子ども・教師	24名
11/11 (月)	小口敬史（泰阜中学校）／永田潤一郎（文教大学 教授） ○発問を基にした生徒と教師の数学的活動のあり方はどうあったらよいか	11名
11/14 (木)	豊科東小学校／楠見友輔（信州大学 講師） ○対話をとおして学びを深めていく子どもを目指して	14名
11/15 (金)	伊那小学校／苦野一徳（熊本大学 准教授） ○内から育つ～自分のあゆみのなかで思いがあふれ出る子ども～	46名
	藤原慎吾（千代小学校）／森下 孟（信州大学 准教授） ○「子どもが夢中になる授業」一人一人に合った授業スタイルを目指して	21名
11/19 (火)	上村 亮（旭ヶ丘中学校）／齊藤忠彦（信州大学 教授） ○子どもたちが「できた！歌えた！」と実感し表現を追究できる歌唱授業	23名
	本間大貴（豊野西小学校）／高柳充利（信州大学 准教授） ○対話が生まれる道徳の授業づくり	11名
11/21 (木)	高野直実（御代田北小学校）／桐原 礼（信州大学 准教授） ○「教える」から「子どもたちと共に学ぶ」授業への転換	14名
11/22 (金)	樋口亜紀子（和小学校）／岩川直樹（埼玉大学 教授） ○わからないからワクワクしちゃう、楽しい授業の作り方	65名
	伊藤あおい（塩尻西小学校）／山浦貞一（信州大学 特任教授） ○自分事として深く考え、考えを更新していく過程を楽しむ道徳	7名
	辰野西小学校／宮野 尚（信州大学 助教） ○生き生きと自ら考えを表伝え合う認め合う子ども	6名
	秋山佳樹（川田小学校）／佐藤和紀（信州大学 准教授） ○「教える」から「学ぶ」授業への転換	19名

11/22 (金)	飯島政昭 (裾花中学校) / 新井 仁 (都留文科大学 教授) ○生徒自らが概念を獲得していく数学の授業づくり	9名
11/26 (火)	浅間中学校 / 藤森裕治 (文教大学 准教授) ○「問い合わせ」から始まる探究的な学び	71名
11/27 (水)	丑澤颯斗 (塩崎小学校) / 岩田 靖 (信州大学 教授) ○すべての子どもが夢中になり心ゆくまで運動に親しむ体育学習	22名
11/29 (金)	佐久城山小学校 / 伏木久始 (信州大学 教授) ○子どもが選ぶ 学校が変わる	41名
	和田聖国 (古牧小学校) / 新井 仁 (都留文科大学 教授) ○子ども自ら概念を獲得していく算数の授業づくり	11名

(3) 信州“教育の日”への参画

信州“教育の日”は、創設以来の3つのねがい「信頼・使命」「参画・共生」「教育尊重」の具現に努めるため、構成19団体、後援137団体、地域の関係団体などの連携によって「第21回 信州“教育の日”山ノ内大会」が以下のように行われた。

① 主 催 信州“教育の日”実行委員会

② 共 催 山ノ内町、山ノ内町教育委員会

③ 期 日 11月16日（土）（11月の第3土曜日）

④ 会 場 山ノ内町文化センター

⑤ 主な内容

- ・4つの分科会を設け8つの個人・団体による発表を行った。分科会参加者200名、コカリナ発表や物販に関わった小学生などを含めると280名ほどの参加となった。
- ・分科会では発表者への質疑や意見交換、ワークショップを取り入れるなど体験参加型とした。

ア 開会セレモニー

実行委員長挨拶、祝辞（県教育長 武田育夫氏・山ノ内町長 平澤岳氏）、三行詩表彰、志賀高原森のふくろうコカリナ合奏団によるコカリナ発表、分科会発表者紹介

イ 分科会 1分科会につき45分×2団体による発表

第1分科会

A 「ふるさとの魅力を“民話”を通して子どもたちに伝えたい」

発表者：NPO法人すがかわ暮らし応援隊 代表 外山 俊 氏

B 「地域に飛び出し学ぶ子どもたち～町全部をESD学習のフィールドに～」

発表者：山ノ内町教育長 竹内 延彦 氏、教育委員会 小林 妙子 氏

ユネスコエコパーク推進室 藤井 芳人 氏

第2分科会

A 「自然の中で五感を育み、子ども達が輝く保育幼児教育の姿」

発表者：一般社団法人 てとて 里山ようちえん おやまのおうち
代表理事／園長 山崎 龍平 氏

B 「地域と創る学校物語山ノ内コミュニティースクール」

発表者：チーム西小 山ノ内町立西小学校の保護者

第3分科会

A 「観光で地域おこしは持続可能なひとづくり！」ふるさとに戻った地域おこし協力隊が描く町の未来像」

発表者：一般財団法人山ノ内まちづくり観光局 新井 彩香 氏

B 「『発見!! 地域のタカラ』～商品開発で地域の魅力をお届けします～」

発表者：中野立志館高校生

第4分科会

A 「観光×農業×教育で拓くこれからの山ノ内～子ども時代に培った感性を次代の子ども達にもつなげていく～」

発表者：有限会社金子 FARMERs STYLE 金子 真一朗 氏 山口 創太 氏

B 「ユネスコスクールとして志賀高原の自然を護り活かす活動をリードする高校生の姿」

発表者：中野西高校生

ウ 展示発表 「県PTA主催三行詩コンクール優秀作品」を館内に掲示

エ 製品販売 飯山養護学校高等部生の作品をロビーにて販売

中野西高校生によるスペシャリティコーヒー販売（丸山珈琲とコラボ）

南小児童による地元ブランド米「雪白舞」おにぎり弁当の販売（結やとコラボ）

オ 開会前 山ノ内町の紹介ムービー

小澤征爾さんと中学生との思い出映像の上映

OZAWAROOMの見学（山ノ内中学校内） 希望者

カ 閉会セレモニー

感想発表（フロア）、振り返りのムービー、県歌「信濃の国」齊唱

5 研修・研究助成

（1）大会補助

学校現場の実践課題や社会における喫緊の教育課題をテーマに開催される研究大会に対して、教職員の資質向上をはじめ、県民の教育に対する意識の高揚が図られることを願い、補助を行った。

実施された内容は次のとおりである。

大会名	開催期日	開催場所	参加者数	補助金
信濃教育会総集会	7月 6日（土）	白馬村ウイング21	約600名	1,174,650円
全県研究大会	前頁参照	県内24小中学校	592名	2,400,000円
信州“教育の日”	11月16日（土）	山ノ内町文化センター	200名	108,470円
合 計			約1,300名	3,683,120円

（2）視察派遣助成

① 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会

ア 目的

日本連合教育会は、昭和24年に発足し、常に中正普遍の日本教育の確立をめざし、世界の平和と人類の福祉に貢献できる日本人を育成するための活動を続けてきている。

本年は、創立76年目を迎える。愛媛大会では、大会主題に「共助のこころで しなやかに生きる日本人の育成」を掲げ、日本の教育のあり方を考える。

イ 実施内容

・期日 令和6年7月25日（木）・26日（金）

・会場 エスパワール愛媛文教会館 他

ウ 信濃教育会派遣者数 計40名 内訳 参集参加14名（提案者1名、青年教師の会参加者9名、事務局4名） オンライン参加26名

エ 信濃教育会分科会提案者

提案分科会：第7分科会「学校・家庭・地域社会の連携（シンポジウム形式）」

提案者：松本市立開智小学校 江口 友希教諭

② 第47回長野県同和教育研究大会

ア 目的

部落差別をはじめとしてあらゆる差別の撤廃に向けて、人権・同和教育の一層の充実を図るため

に、識者の講演を聴いたり、体験発表を聴いたりして、差別撤廃への意欲を高め、実践力を養う。

イ 実施内容

- ・期 日 9月19日（木）
- ・会 場 長野県総合教育センター（塩尻市）
- ・参加者 15名

③ 第43次日中友好長野県教育者訪中団

新型コロナウイルスの感染状況に波があり不安な状況が続くため派遣を中止した。

（3）教育会研修助成

各郡市教育会で開催される2つの教育懇談会の事業に対し、その事業経費の一部を補助し、参加者の職能研修並びに各教育会の事業振興を支援した。

教育会集い事業は、多くの教職員が集い、人と人とのつながり、教育会の大切さを認識する各教育会で行われる懇談会や講演会、講座・講習会、読み合わせ等に対し、一律50,000円の助成を行った。

新任者教育懇談会は、先輩や新任教師との懇談を通して、今の自分を見直す有意義な機会となった。

新任者教育懇談会を実施した郡市教育会に対して新任者1名当たり500円の助成を行った。

実施された事業は次のとおりである。

教育会名	教育会集い事業		新任者教育懇談会	
	実施日	参加者数等	実施日	新任者数
佐 久	11月12日（火）	35名	6月18日（火）	49名
小 県 上 田	12月 7日（土）	38名	5月21日（火）	55名
諏 訪	11月 1日（金）	70名	5月 2日（木）	90名
上 伊 那	10月15日（火）	38名	5月24日（金）	66名
下 伊 那	1月24日（金）～2月4日（火）	335名	5月28日（火）	75名
木 曽			4月25日（木）	12名
東 筑 摩 塩 尻			7月 5日（金）	12名
安 曇 野 市	11月 9日（土）	66名	5月28日（火）	16名
北 安 曇	11月22日（金）	48名	4月30日（火）	20名
更 塙	7月29日（月）	168名	5月 2日（木）	18名
上 高 井			5月21日（火）	8名
中 野 ・ 下 高 井	8月 3日（土）	74名	5月16日（水）	9名
飯 水			6月10日（月）	7名
長 野 上 水 内	8月 3日（土）	305名	4月11日（火）	68名
松 本 市	11月12日（火）	76名	6月20日（木）	55名

※ 教育会集い事業 助成金総額 550,000円（11教育会） * 斜線箇所は未実施

新任者教育懇談会 助成金総額 280,000円（15教育会）

6 応募型研修助成

（1）短期視察研修補助

この事業は教職員個人や学校現場が抱える課題を解決するために、県内外の学校や教育機関で5日以内の研修を希望する会員及び当該会員が勤務する学校に対して、研修費用の補助や研修に赴く教職員の補充者の紹介及び謝礼の補助を行うものである。

- ① 応募者数 30人
- ② 補助金額 580,000円

(2) 自主的校内研修補助

会員の職能向上のために学校独自に行う校内研修に対して、研修を深めるための必要な費用（講師謝礼・資料作成費など）の補助、資料の貸出しを行う。

補助金額は、その校における県費教職員数と信濃教育会の会員数の割合に応じた額で算出。

① 応募校数 80校

② 研修内容 授業・指導の改善46校、特別支援教育：5校、人権同和教育：1校
その他（ICT、教育相談、人間関係づくり、小中連携など）：28校

③ 補助金額 1,833,000円（1校平均 22,913円）

④ 感想（実施校の感想等から）

ア 「なかなか観察できない遠隔地の先進校の観察ができたり、各校の実態に即した研修が実施できたりするので大変ありがたかった」の感想にあるように、この事業は学びたい教職員のニーズに応える大切な事業の1つである。

イ 「補助金を子どもたちの未来の教育に役立てる一助になるように研究に励みたい」という前向きな意見も多く、補助金が大切に使われている様子が伺わせて大変ありがたい。

ウ 「今まで補助をいただいたことがなかったのですが、補助のおかげで研修に一步踏み出せた」との感想は、補助金が先生方の背中を押すきっかけにもなっていることが分かる。さらに周知を徹底し、一人でも多くの会員に利用していただけるようにしたい。

(3) 学び続ける教師への助成事業

① 学術的な研究調査に励む教師への助成事業

この事業における助成対象の専門的な学術分野における研究調査活動とは、自然科学や人文科学、あるいは保健衛生学や疾病等の医科学などにかかわるものとして、研究調査に必要な機材・資材や関係文献・書籍購入費、資料作成費等、研究調査に必要なものに助成するものとします。

ア 申込み者数 12校12人

イ 助成の内容 自然科学関係（石垣島の野鳥調査、宮古島の植物・魚類・鳥類等の調査）
人文科学関係（個別最適な学びの効果、自己調整スキルの育成）

ウ 助成金額 36万円

② 子どもたちの探究的な学びを実現する教師への助成事業

この事業における助成対象の探究的な学びとは、教師が主導して活動が展開していく学習ではなく、子どもたちが課題を見つけ、考え、判断していく学習活動とします。明らかに探究的な学びが成立している、あるいは今後成立する見込みがあれば、学びに取り組む子どもたちとは、会員が担任する学級集団であっても、あるいは学年集団であっても、学校全体であっても認めるものとします。

ア 申込み者数 11校19人

イ 助成の内容

「オリジナルグッズを開発して博物館を盛り上げよう」「おやきをもっと身近なものに!」「虫ってどんな生活をしているのかな?」「Yashiro Challenge Project 世のため、人のため、私のできることは何か」など総合的な学習の時間や生活科等での実践で、探究的な学びを実現している会員からの申込みが多かった。11校中小学校が8校で、中学校は3校であった。

ウ 助成金額 38万円

(4) 教育研究論文・教育実践賞

会員の教育的課題解決への機運を高め、信州教育の創造につなげたいと願って企画・実施した。令和5年度より、2次審査に外部審査員6名を加えより開かれた審査となるようにした。112篇の応募があり、主体的に研究や実践に取り組んだ会員やグループが意欲的に参加している。

今年度も、他への応募と内容が重なる作品はなかった。応募作品は信濃教育会の信濃教育博物館に

貴重な資料として保管し、会員をはじめ一般にも公開される。また、特選受賞のみならず入賞者はポスターセッション形式で発表するとともに、特選作品は雑誌『信濃教育』に掲載され、教育の振興に有効な資料として提供されている。

実施内容は次のとおりである。

① 募集内容

以下にかかわる研究や実践

○学習指導 ○生徒指導 ○教材・教具の開発 ○心の教育 ○特別支援教育 ○その他教育全般

【特別テーマ「学校づくり」】

○学校マネジメント ○教育改革 ○校種間・地域連携 ○学校事務 ○その他

② 審査

ア 審査委員 4名

委員長 代議員会代表 西 一夫 信州大学教育学部教授

委 員 外部審査員 工藤 信一 信濃毎日新聞社論説委員

委 員 常任委員会代表 早川 孝一 通明小学校長

委 員 幹事会代表 小野 英子 豊野西小学校長

イ 審査日 令和7年2月20日(木)

ウ 審査結果(応募数112篇)

特選 2点(個人1 グループ1) 準特選 3点(個人2 グループ1)

入選 11点(個人7 グループ4) 佳作・奨励賞 96点

③ 入賞者の表彰他

ア 特選: 10万円 準特選: 8万円 賞金の他に楯と賞状

入選: 3万円 賞金と賞状

佳作: 1万円 奨励賞: 図書カード(2千円分)

イ 特選受賞者及び入選者は、令和7年7月5日(土)に行われる第139回信濃教育会総集会佐久大会においてポスターを展示し、後日オンラインにてポスターセッションを行う。

(5) 教育研究団体補助

県内教育団体〈同好会〉への補助を通して、同好会への参加・参画による「共に学び合う」意識の高揚と、教科など専門性に関する教師の資質の向上を図るために実施している。

補助内容は次表のとおりである。

補助金申請教育研究団体名	責任者名	会員数など	本年度補助金
信州社会科教育研究会	野口 茂雄	579名	90,000円
長野県学校体育研究会	小笠原 重光	687名	90,000円
信州理科教育研究会	土屋 次男	589名	100,000円
長野県算数数学教育研究会	茅野 公穂	570名	100,000円
長野県音楽教育学会	牛越 雅紀	416名	65,000円
長野県技術・家庭科教育研究会	武井 利博	318名	60,000円
長野県国語教育学会	吉越 秀之	240名	40,000円
長野県学校保健会養護教諭部会	畠山 文子	596名	60,000円
長野県美術教育研究会	徳嵩 博樹	287名	45,000円
長野県道徳教育学会	中島 一彦	187名	35,000円
長野県英語教育研究会	臼井 伸明	120名	40,000円
生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	塩原 孝茂	143名	35,000円
長野県書写書道教育研究会	小池 熱	54名	35,000円
長野県家庭科教育研究会	竹内 宏枝	31名	20,000円

長野県国際教育研究協議会	宮澤 忠利	225名	35,000円
信州大学教育学部附属幼・小・中・特別支援6校園学習指導研究会	赤羽 眞夫	参加者数 600名	160,000円
長野県図書館協会小中学校図書館部会	林 明美	541校	50,000円
長野県視覚・放送・情報教育研究会	桂本 和弘	540校	50,000円
長野県統計教育研究協議会	桂本 久美子	518校	30,000円
長野県特別支援教育研究連盟	臼井 伸明	484校	25,000円
長野県学校保健会 小・中・特別支援学校保健主事部会	新井 重則	551校	20,000円
長野県へき地教育振興協議会	永田 治	77市町村	20,000円
合 計			1,205,000円

7 教育推進懇談会

長野県の教育の向上を目指して、次の教育関係機関との懇談会を実施した。

- ・長野県PTA連合会 6月 5日 (水)
- ・長野県小学校長会・中学校長会 7月 11日 (木)
- ・長野県教育委員会 8月 20日 (火)
- ・教育研究団体 9月 4日 (水)
- ・信濃教育会賛助会員会 10月 9日 (水)
- ・長野県退職校長会 12月 4日 (水)
- ・長野県教職員組合 12月 10日 (火)

8 教育関係機関との連携

(1) 信州大学教育学部との連携

- ・教職コーディネーター (4月～8月までの間 35日)
- ・エデュケーションチャレンジへの支援
- ・信州大学教育学部一年生への講義 8月 1日 (木)

(2) 長野県との連携

- ・「信州学び円卓会議」への参加

9 生涯学習の振興・支援並びに学校教育の振興

(1) 会員・教職員及び県民などへの会場・施設の貸与

信濃教育会員など教職員で構成する教育研究団体や一般の教育団体等に信濃教育会館本館の講堂・講義室・会議室、博物館の展覧会会場、生涯学習センターの講堂・学習室などを貸与した。

実施内容は次のとおりである。

- ① 会員、教職員の会議、研究会、企画展への会場貸与
- ② 県民への会場貸与 (信州あづみ野生涯学習塾、生涯学習インストラクターの会など)
- ③ 教育関係団体への施設貸与

(2) 施設整備

- ① 荧光灯が3年後に製造終了されることから信濃教育会館の照明器具のLED化工事を行った。
- ② 講堂の音響設備についてアンプやミキサー、マイクなどの改修工事及びステージ正面の壁面にスクリーン用のクロス工事を行った。
- ③ 第四駐車場の樹木について道路側に枝が張り出していたため4本を伐採した。

二 教育・学術図書の研究調査事業

1 教科用図書研究調査

(1) 理科学習帳、生活科教科書・教師用指導書

県内4ブロック及び長野上水内教育会とその近隣郡市教育会より推薦された熱意と創意にあふれた委員の実践をもとに理科・生活科教育の研究を進めた。

委員自身の教科研究のあり方や指導力が一層高まり、委員の学校や他の会員にもその成果を拡げ、学校や地域の教育力の向上に寄与している。

① 理科学習帳の研究

理科学習帳研究委員会は、昨年度、名称を理科学習研究委員会に変更し、よりよい学習帳の編集に努めるとともに、理科教育全般の向上ための研鑽を積むことを目指すこととした。令和6年度版理科教科書に準拠した3～6年の学習帳上巻は4月に発行、下巻は7月に発行した。

令和5・6年度をまとめた「理科の教室」100号は、理科教科書の研究者や編纂に携わった元教科用図書研究部長などに寄稿をお願いし、記念特集号として長野県の理科教育に係る歴史の一端を残すことができた。なお、「理科の教室」は、7年5月、信州教育出版社より、県内全ての小・中・特別支援学校へ無償配布し、学年会や教科会での活用に供した。

ア 理科学習帳研究委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・令和6年度版理科学習帳下巻の発刊 ・3～6学年上下巻の実践報告	11回	15名 (監修者1名)
ブロック委員会	・令和6年度版理科学習帳の実践報告 ・基礎講座「理科観察・実験講習会」実施	3回	26名
全 体 会	・実践事例に基づいた理科学習帳研究 *全体会はオンライン、ブロック委員会はそれぞれの会場で対面式により開催	2回	42名

イ 正副委員長・ブロック主任会

委員会名	内 容	回 数	委員数
正副委員長・ ブロック主任会	・進捗状況把握と推進計画立案 ・委員の推薦に関わる情報交換	2回 *1回はオンライン	7名

(正副委員長・ブロック主任会構成：正副委員長3、ブロック主任4、部長1)

ウ 令和6年度版理科学習帳 3～6学年（各上・下巻）の実践報告

エ 「理科の教室」第100号（令和7年5月発行）の編集

・内容 100号特別号の企画検討

② 生活科教科書・教師用指導書、生活科・総合的な学習の時間実践誌の研究

「人間愛」の育成を基本理念とし、「子どもの思いや願いから出発」した「地域に根ざした教材と直接体験」、「豊かな生活のドラマを作り出す単元構成」などに留意しながら、県内の多くの学校の実践を通して生活科教育研究を行ってきた。

令和6年度生活科教育研究では、本部委員による授業実践や各ブロックの実践から、令和6年度版生活科教科書の実践研究に基づく新教科書への課題の検討を行った。また、次期教科書・指導書編集に向けて、実践事例・記録・写真・資料などの収集を行った。

「ふるさとの大地」編集委員会は、主として生活科教科書の理念に基づいた各地域の実践事例を収集し、豊かな学びや育ちを支える活動のポイント、教師の子どもを見るまなざしが分かるものとして信州の生活科・総合的な学習の時間 実践誌「ふるさとの大地」28号の編集を行った。特集編集テーマを「やってみよう」とし、生活科・総合的な学習の時間の「立ち上がり」について掲載した。

これらの編集を通して、生活科・総合的な学習の時間の意義や実践に生かせる内容の深化を図り、学び高め合う生活科教育ならびに総合的学習の時間の充実と発信に努めた。編集委員会では、原稿審議の過程が委員や執筆者の研修（職能向上）となり、さらにそれが学校現場で“人から人へ”拡がつ

ていくことを大事にした。

委員会実施の内容は、次のとおりである。

ア 生活科教育研究委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・令和6年度版生活科教科書の実践研究 ・ブロック会への参画 ・実践検討会の実施	10回	12名
ブ ロ ッ ク 委 員 会	・教科書単元の授業実践と研究 ・素材及び教材研究と子ども理解の研究	4回	26名
全 体 会	・指導書編集にかかわる実践課題の検討 ・各ブロックで研究課題についての協議	2回	38名

イ 「ふるさとの大地」編集委員会

委員会名	内 容	回 数	委員数
本 部 委 員 会	・「ふるさとの大地」28号の編集、原稿審議、校正	10回	10名
ブ ロ ッ ク 委 員 会	・「ふるさとの大地」28号の原稿審議、校正 ・実践事例研究	4回	18名
全 体 会	・年間計画、ブロック会計画、編集方針 ・各ブロック会での課題検討	2回	28名

ウ 正副委員長・ブロック主任会

委員会名	内 容	回 数	委員数
正副委員長・ ブロック主任会	・全体統括、進捗状況把握と推進計画立案、教科書活用の現況分析、他 ・今後の組織運営について	3回	13名

(正副委員長会構成：正副委員長5、ブロック主任8、教科用図書研究部長1)

(2) 夏休み帳、冬休み帳

「学校や保護者等の要望や願いを生かしつつ、基礎学力の定着や家庭での学習習慣の育成に寄与できる」を目指し、「どんな休みを過ごすか」を考え、意欲を持って取り組める、使いやすい休み帳の研究・編集を行った。今年度から、夏休み帳と冬休み帳のそれぞれを隔年で編集するようにした。

実施の内容は次のとおりである。

① 夏・冬休み帳研究委員会 委員16名 5回

② 編集の重点

ア 児童にとって魅力的な内容や使いやすさ等を考慮した休み帳になるよう、また教科書の採用や改訂に対応できるよう、内容の変更や問題の修正を行った。「自由な学習」の中の工作・一研究の写真等は、適時性を考慮し、可能な限り新しいものに変更した。

イ デジタル化への対応、タブレットへの対応について、できるところから対応した。

ウ 子どもが、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を目指し編集した。また、教科等横断的な課題や社会情勢の中で喫緊の課題と考えられる項目（SDGs、防災教育、環境教育等）や、大人と共に考えたり自分で取り組んだりできるような話題についても、「自由な学習」の中に取り込んでいけるよう取り組んだ。

(3) 高等学校農業学習書

令和4年度から年次進行で実施される学習指導要領の改訂を受け、『畜産実験実習必携』『バイオテク

ノロジー基礎』の学習書について、農業高等学校の実践をもとに使いやすさと学習成果の向上を目指した研究を継続した。各部会については今年度開催せず、委員各自が改訂に向けて畜産並びにバイオテクノロジー部門の事例や基本データの収集を行った。

① 高等学校農業学習書研究委員会

委員長1名 総括1名 アドバイザー1名 委員9名 全体会1回

② 編集の重点

県内農業関係の高等学校で委員自らが実践した素材・教材研究を持ち寄り、農業学習に必要な実験・実習の基礎基本を身につける学習書として編集している。販売実績としては、広島県、長崎県の農業高等学校で継続購入していただいている。

(4) 信州の教師 基礎基本

教師として身につけておきたいマインドや授業の基礎基本、信州教育として大切にされてきた子ども観や授業観をもとに、教師としての夢を育むことのできる本の編集に取り組んだ。原稿が完成したので、編集のための委員会は今年度限りとした。次年度は監修者と委員長で校正を行い、令和7年度に「信州の教師 基礎基本」の本を発刊する。

① 「信州の教師 基礎基」本編集委員会 委員6名 監修者1名

委員会の開催：5回 (内オンライン開催3回)

② 編集の進捗状況

多くの読者に手に取ってもらえるように、章立てと内容をきめ出し、各項目の原稿を完成させた。

(5) 理科手引書

教育実践に基づいた授業づくりのポイントをおさえ、教科書と指導書、児童の学びと教師の指導をつなぐことをコンセプトとし、現場の要望やアンケート調査に基づいた研究・調査とともに、執筆した原稿や章立てについて審議を重ねてきた。

① 理科手引書研究委員会 委員17名 回数10回

年度当初に今年度の委員会活動について正副委員長と幹事長による打ち合わせを行った。

② 「授業づくりのアイデア (学習指導要領の内容項目) の見直しを行うとともに、「授業づくりのポイント」「授業づくりのテクニック」「授業づくりのベーシック」やコラムについて執筆を進めた。学年グループや全体会で審議を重ね、児童観、授業観、教材観について議論を重ねた。また、章立てについては、現場のニーズに照らした項目の絞り込みと内容の検討を行った。

③ 委員長を含む4名の委員で、個別最適な学びや自由進度学習の先進校である愛知県の緒川小学校を訪問し、知見を広め情報を得ることができた。また、理科学習研究委員の協力を得て、自由進度学習の授業参観や研究会に参加し、理科学習における実際の取り組みについて学ばせていただいた。今後、執筆予定である「授業のエスプリ 一個別最適な学びとはー」の参考となる有意義な機会を得ることができた。

(6) 秘伝「信州教育の極意」

専門職である教師が研究と実践を通して語った言葉や実践を集め、「信州教育の極意」として多くの教師が共有するとともに後世に伝承することを目指して、文献調査・研究および執筆を進めて4年目を迎えた。今年度は原稿の最終確認、校正を進め、発刊に至った。(12月12日発刊。2,000部)

① 秘伝「信州教育の極意」研究委員会 委員6名 回数6回

② 編集の進捗状況

昨年度までチームリーダーを務めた委員が今年度は残り、各委員が2人の人物について調査研究および原稿執筆を行ったものの校正を行った。最終の委員会終了後、雑誌図書編集部にて、最終のファクトチェック、表記の確認・統一、写真等の許諾確認等を行い、人物35名、コラム10名が掲載された本誌が発刊された。

③ 監修者の助言

高柳充利氏には、第4・6回委員会にご出席いただき、委員が校正を進める中で解決できていない内容についてご指導をいただいた。ファクトチェックや引用の仕方等について改めてご助言いただいた。また、発刊に当たり、「監修の言葉」を執筆いただいた。

2 学術図書編集発行

(1) 雑誌『信濃教育』

会員の声を生かし、学術図書として、また機関誌としての情報の提供や教育研究資料の累積、会員の職能の向上、地域の生涯学習などへの寄与を願って編集・刊行した。

雑誌『信濃教育』は、日本一長寿の月刊学術図書であり、明治19年創刊以来発刊し続けて139年間、令和7年3月で第1660号になった。会員のみならず、県内外の教育関係者をはじめ大学等の教育研究機関などで幅広く購読されている。

実施内容は次のとおりである。

① 委員会

- 雑誌編集本部委員会 委員 6名 4回 (内オンライン会議1回)
- 雑誌編集地方委員会 委員 17名 3回 (内オンライン会議1回)

② 編集方針

- 教師としての生き方、現場の課題などをテーマに、識者の論文、現場の実践報告、教育関係者だけではない立場からの寄稿など、幅広く執筆を依頼した。
- 各郡市教育会に寄稿を依頼し、親しみやすい連載コラム欄を設けた。
- 4月号インフォメーションで、コラムへの執筆を募集し、1名の応募があった。第1654号(令和6年9月)「こもれび」に掲載した。

③ 編集テーマ

- | | |
|------|----------------------------|
| 4月号 | 子ども達が教えてくれたこと～教師のやりがい～ |
| 5月号 | 私の「学級づくり」 |
| 6月号 | 私の「授業」 |
| 7月号 | 生徒指導の充実に向けて～子どもたちの居場所を考える～ |
| 8月号 | 学校教育におけるE S Dの推進 |
| 9月号 | 「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業 |
| 10月号 | 特集 第138回信濃教育会総集会 |
| 11月号 | 我が同好会の取組 No.1 |
| 12月号 | インクルーシブな教育を求めて |
| 1月号 | 幼保小中高の連携について考える |
| 2月号 | 我が校の授業研究 |
| 3月号 | 安全・安心な学校づくり |

※宮下健司氏の連載『信濃の国探訪—信濃の時を刻む景観とかたち—』が始まった。

- 5・6月号 安曇野「北アルプス・新宿中村屋・疊山」
- 7・8月号 諏訪「八ヶ岳・諏訪湖・片倉製糸」
- 9・12月号 小諸・佐久「丑井峠・鉄道・玄関口の小諸」
- 1・3月号 木曽谷「御嶽山・中山道・木曽檜」

※11月号特集「我が同好会の取組」が3年間の予定で始まった。

令和6年11月号掲載(理科、音楽、技術・家庭、養護教諭、書写書道の5同好会)

3 図書教材研究協議会

信濃教育会が編集している教科用図書、図書教材、学術図書などの出版事業について理解を深めるとともに、今後の事業内容、活用拡大について協議した。また、教育現場における出版物(教科用図書、図書教材、学術図書など)の活用状況や会員の要望、アイディアを収集し具申した。

(1) 図書教材研究協議会 委員数…15名

開催数…2回

(2) アンケートの実施

Google フォームによるアンケート調査を、県内全小・中・特別支援・義務教育学校の学校委員にアンケートを依頼し、多くの教職員から意見や要望が寄せられた。アンケート結果を受け、今後の事業への反映について各校に周知するとともに、事業推進に生かすことができた。

三 生涯学習振興事業

1 生涯学習の推進

(1) 生涯学習振興委員会

生涯学習センター運営部会（委員9名）については、生涯学習講座「哲学の道」の準備・運営等、2回実施し、生涯学習事業の支援を行った。

2 信濃教育博物館の運営

(1) 研究調査・資料収集・保管

信濃教育会がこれまでに発行してきた教科書や出版物、各都市教育会や個人から寄贈された書籍や出版物を筑波大学名誉教授伊藤純郎アドバイザーの助言を得て研究調査・収集・整理・保管して、学界・教育関係者・県民への閲覧・利用に供した。また各都市教育会や教育機関の発行した教育資料・郷土資料の収蔵・管理や「信州子ども絵画100年館」の絵の収蔵・管理を行い、県民の財産としての収蔵資料の一層の充実を図った。なお、「信州子ども絵画100年館」の収蔵作品のデジタル資料保存を受けて、その活用のあり方を検討してきた。

① 「牛山榮世先生遺稿集」編集委員会

牛山榮世先生からの寄贈資料の研究調査を進めるとともに、令和8年の遺稿集発行を目指して編集作業を進めた。

- ・委 員 … 公募による委員12名
- ・委員会回数 … 年間6回開催

(2) 展 示

① 資料企画展

資料整理のため資料企画展は中止した。

② 今を生きる子どもの絵展

ア 子ども絵画企画展

信州の子どもたちの絵画を後世に残し、貴重な資料・教材として収蔵・活用するために、子ども絵画作品を募集・展示した。永年保存作品の展示と収蔵、会報への掲載、さらには、入選者への賞状授与は、大きな励みと夢を与えている。「信州子ども絵画100年館」の絵の展示を「今を生きる子どもの絵展」として次のように開催した。受賞者の家族等、多くの来館者があった。

事 業 名	期 間	内 容	来館者数
今を生きる子どもの絵展	3月 8日(金) ～5月 31日(水)	「今を生きる子どもの絵展」の 令和5年度永年保存作品展	588名
企画展 「わたしが通った 思い出の学び舎」	7月 12日(金) ～8月 9日(金)	永年保存作品の中からテーマ に沿って描かれた作品	220名

イ 子ども絵画移動展は、より多くの人に鑑賞してもらうために、会場を信濃教育会生涯学習センターに移して下記のよう開催した。

事 業 名	期 間	内 容	来館者数
今を生きる子どもの絵展	10月 2日(水) ～10月 8日(火)	「今を生きる子どもの絵展」の 令和5年度永年保存作品	171名

ウ ホームページへの掲載

令和5年度永年作品を信濃教育会ホームページに11月から掲載した。1学年3～4作品を2か月に1度更新して、ホームページでも閲覧できるようにした。

③ 郡市教育会展

各教育会の歴史や特色を紹介する「郡市教育会展」は、各教育会が展示資料を作成し本館に展示している。令和6年度は東筑摩塩尻教育会展をエントランスホールで行った。

(3) 収蔵資料等の閲覧・貸出

① 資料の閲覧・貸出

信濃教育博物館には、教育に関する国内外の貴重な資料が収蔵・保管されている。特に、雑誌『信濃教育』や教科書類の資料的価値は高い。研究者・報道関係者・博物館関係者・一般閲覧者などが資料を求めて来館した。来館者は、県内はもとより県外からは関東一円に加え、関西など遠方に及んでいる。

区分	期間	利用先	内容など	利用数
資料の掲載・放映等	通年	いき出版、大修館書店、信大教育学部(個人)、長野市民新聞、県立歴史館	信濃教育だより写真、国語教科書、杉崎資料、松代封内測量図、佐久間象山肖像画(寄託中)	5件
資料の閲覧・複写・写真撮影等	通年	会員、研究者、一般	郷土資料・職員録・教科書・雑誌『信濃教育』・教育会史研究等	43件

② 子ども絵画の閲覧・貸出

美術教育や文化の振興を図るため、所蔵する児童・生徒の絵画を希望者に閲覧・貸与した。

事業名	期間	利用先	利用数
子ども絵画作品の利用	通年	学校 県内小中学校 12校 団体等 信州教育出版社・県PTA連合会・日本教育公務員 弘済会長野支部・長野県民新聞社・信更公民館 教育会 佐久教育会、木曽教育会 個人	382点

③ 展示会場などの貸与

会員及び学生・県民・一般の芸術活動などの成果発表の場として、また、そのことを通して文化の振興に寄与するために展示会場などを貸与の機会を設けた。

ア 会員展 なし

イ 高校・大学・専門学校・一般県民への展覧会会場貸与

期間	内容	来館者数
9月30日(月)～10月4日(金)	Fの会グループ展	50名
2月7日(金)～11日(火)	信大教育学部 学生書道展	89名

④ 資料の寄託

本会の依頼により大正2年に中村不折が制作した『佐久間象山肖像画』について、より多くの方に作品をご覧いただきたいとの願いで、令和5年度から不折の故郷にある信州高遠美術館に寄託している。

寄託期間は令和6年1月4日から令和9年3月31日まで

(4) 子ども絵画育成支援

児童・生徒の情操を養うとともに、美術教育の振興を図るために県内の児童・生徒から、「信州子ども絵画100年館」に収蔵する絵画作品を募集し、地方審査と中央審査を経て、地方と中央の入選者全員の表彰を行った。中央審査会では信州大学の学生が審査アシスタントとして参加した。中央審査会で「信州子ども絵画100年館」で永年保存となった全員の名簿と代表作品を会報に掲載し、関係者の励みとともに広く教育・文化の発展に寄与した。

なお40回を数えた「花やみどりのある絵展」は平成26年で募集を終了した。その永年保存作品10,589点を収蔵し、展示や貸出をしている。

① 今を生きる子どもの絵展募集状況

作品数	小学校	中学校	合計
応募作品数	4,179点	1,975点	6,154点
永年保存表彰数	107点	51点	158点

入選累積数（昭和62年から令和6年まで） 合計 8,273点

展示期間 令和7年3月7日（金）～5月30日（金） 4月7日以降は平日のみ開催

② 表彰・顕彰

全入選作品作者（地方入選・中央入選）に対し、賞状授与を行った。また、永年保存作品作者に対し、作品カラー写真を貼付した「永年保存証」を贈り、「信濃教育会報」に名簿と代表作品を掲載した。

3 生涯学習センターの運営

県民ならびに児童・生徒、教育関係者の生涯学習のために適切な機会と場を提供するなどの事業を開した。

（1）生涯学習講座

「生きがいを求め 共に学ぶ喜び」をテーマに講座を設け、県民と会員との相互の学び合いにより、人間的な幅広い生き方や感性を磨き、参加者は学びを深めることができた。

哲学の道	10月19日(土)	講演 「哲学へのいざない—美と芸術」 藤田 正勝（京都大学名誉教授）	55名 + 16名 (オンライン)
------	-----------	--	-------------------------

（2）生涯学習センターの開放と生涯学習支援

信州あづみ野生涯学習塾をはじめ生涯学習に励む個人や団体に学びの場を提供したり、情報を示したりして活動を支援した。内容は次のとおりである。

① 信州あづみ野生涯学習塾・つむぎ会（地域のボランティア団体）への支援

（参加者数は延べ人数）

講座名	期日・回数（2月末現在）	内容	参加者数
彫塑	4～12月 月4回 30回	モデルを囲み彫塑制作	107名
拓本表装	通年 月2回 22回	拓本採拓及び表装学習	98名
タピボン刺繡	通年 月1回 10回	刺繡制作	33名
マナ・トーン	通年 月3回 44回	ハンドベル演奏・合唱	269名
箏アンサンブル	通年 月3回 37回	箏演奏	103名
書を楽しむ会	通年 月2回 21回	書を学ぶ	144名
高家茶の湯の会	通年 月2回 8回	茶道お点前	34名
つむぎ会	通年 週2回 93回	交流会・ストレッチ・大正琴	489名

「信州あづみ野生涯学習塾・つむぎ会 合同発表会」の実施

11月23日（土）・24日（日） 来館者数 63名

② 教育関係団体（全県的な同好会など）、生涯学習団体への会場の貸与

③ 連携・施設の活用

所在地が県のほぼ中央にあることの利便性や広い駐車場を生かし、信濃教育会の諸事業が全県的に円滑に推進できるように次のこと取り組んできた。

ア 児童・生徒絵画展の実施（信濃教育博物館事業との連携）

・「今を生きる子どもの絵展」（移動展）10月3日（水）～10月8日（火） 作品 155点
来館者数 171名

イ 諸会合の開催

・研究調査委員会、各種研究会等の開催

四 災害見舞金事業

1 事業内容

信濃教育会の「相互扶助」の精神のもとに、死亡・高度障害、後遺障害、災害入院、災害通院及び自然災害による不動産への損害に対する見舞金支給を行った。

実施内容は次のとおりである。

(1) 災害見舞金事業

① 令和6年度支払い状況 支給総額 6,173,230円

死亡 1名 高度障害 0名 後遺障害 0名 災害入院 15名 災害通院 39名

自然災害（不動産） 3件

② 制度発足からの累計（昭和50年度～令和6年度）

人数 980名（件） 金額 1,651,978,776円

(2) 災害認定委員会

年3回（内2回はオンライン開催）実施し、審議・認定を行った。

(3) その他

前年度より「災害見舞金ネーミング選考委員会」によりニックネーム（愛称）の募集、最終候補作品の決定、会員による投票により「信教災害サポート（SSS）」に決定した。ニックネームを決める過程を通して会員が災害見舞金についての理解が進んだものと思われる。

委員会は4回行った（会議は全てオンライン）他、年度当初の各郡市代議員会に選考委員が直接出向いてニックネーム募集について説明し災害見舞金事業の周知に努めた。

五 出版・不動産貸与事業

1 出版事業

(1) 長野県学事関係職員録

教育関係諸機関をはじめとする社会の要望に応え、県内教育関係諸機関の情報を掲載した「長野県学事関係職員録」を出版した。教育関係者に贈呈や販売をし、教育活動の円滑な推進に寄与した。

物価高騰の折、令和7年度からの値上げについて検討し決定した。（1冊2,000円に値上げ）

(2) 諸表簿等調査・編集

週指導案簿、学級保健簿、学級日記、出席簿、教務手帳、児童生徒健康診断票などの各種諸表簿の令和4年度版の見直し・改訂を、会員アンケートの意見や要望を踏まえ行った。週指導案簿では、今年度もカバーの色変え、後半部の資料の改訂など、県教委各課と連携し見直しを図った。さらに、会員の要望を受け、「必携資料」のデータを信教ホームページの「会員のページ」に載せ、好評を得た。

今後、検討過程や改善の事実などの取組の広報や周知に努め、会員の参加・参画意識を高めていきたい。また校務の効率化に伴う、「校務支援システム導入」に関する市町村の動向を注視していきたい。

2 不動産貸与事業

信濃教育会館及び土地の一部を教育関係団体に貸与し、各団体の事業推進を支援した。

(1) 土地

・長野県教育会館 ・信濃教育会館入居団体の専用駐車場

(2) 信濃教育会館・事務室

・長野県教職員互助組合 ・長野県退職教職員互助組合
・長野県PTA連合会 ・長野県退職公務員連盟 他

六 広報・運営

1 広報

(1) 信濃教育会報

信濃教育会の事業運営状況を迅速かつ丁寧に報告し、会員にとって読みやすく、信濃教育会への理解を深められるように努めた。最も伝えたいことを表紙写真に用い会員に向けて事業の案内や報告など情報発信・共有を図る場とした。

実施内容は以下のとおりである。

- ① 第1114号から第1124号までの11号を発行した。ホームページのリニューアル、フェイスブックやインスタグラムの開設等タイムリーな情報が会員に届けられるようになったことに伴い会報発行回数を見直した。「今を生きる子どもの絵展」特集号（第1123号）を発行した。
- ② 信濃教育会事業案内や運営状況、事業案内や出版物の紹介に加え、信濃教育会と他団体との懇談会報告、子ども絵画作品、海外日本人学校情報の掲載などの幅広い情報など、写真とタイトル、レイアウトを工夫し身近に感じて読んでもらえる会報を目指した。
- ③ 令和6年度より、雑誌『信濃教育』10月号の全会員配布を取りやめたことに併せ、10月号で総集会を取り上げ、全会員への情報提供を行った。

(2) ホームページ、SNSによる情報発信

信濃教育会の事業内容や動向についてホームページやSNS等で広く公開し、信濃教育会に対する理解を広めたり深めたりすることに努めた。実施内容は以下のとおりである。

- ① リニューアルしたホームページから、会員への情報提供や信濃教育会の意義や事業内容を発信した。
- ② 情報を集約して随時更新し、信濃教育会の動きを正確・迅速に広報できるようにした。
- ③ 信濃教育会のホームページ活用についてチラシ等との連携を図り、常任委員会等で広報に努めた。
- ④ メール受信を希望する方に信濃教育会の研修等の案内を直接情報提供するよう努めた。

2 運営

(1) 執行、監査、議決、諮問機関

詳細は以降参照

(2) 会員アンケートの実施

- ① 内容 信濃教育会の事業評価及び今後の運営についての要望
- ② 実施校数及び回答数（回答率は 回答者数／会員数）

郡市教育会	対象校数	回答数・率	郡市教育会	対象校数	回答数・率
佐久	小7・中4	116/150 77.3%	小県上田	小6・中3	114/130 87.7%
諏訪	小6・中3	119/120 89.2%	上伊那	小6・中3・特1	173/186 93.0%
下伊那	小7・中4・特1	160/181 88.4%	木曽	小3・中2	36/44 81.8%
東筑摩塩尻	小3・中2	38/67 56.7%	安曇野市	小3・中2	77/100 77.0%
北安曇	小3・中2・	55/90 61.1%	更埴	小3・中2	62/72 86.1%
上高井	小3・中2	64/76 84.2%	中野・下高井	小3・中2	82/90 91.1%
飯水	小2・中1・特1	52/54 96.3%	長野上水内	小10・中5・特2	166/278 59.7%
松本市	小5・中4・特2	121/178 68.0%	高等学校	4ブロック各1校	5/10 50.0%
計	小70・中41・特8・高4	回答数・率	1,440/1,826	78.9%	

③ アンケートの全体考察

本年度のアンケート回収率は80%近くであり、昨年度の約90%を10%ほど下回る結果となったが、できるだけこの回収率以上を維持し、多くの声を吸い上げたい。年代別では、60代の割合が上がっていることから、定年延長となつても継続していただいていることがうかがえるが、さらに若い教職員にとっても魅力ある身近な信濃教育会をめざしたい。

研究調査事業においては、ICT、新しい時代の教育等へのニーズがあるが、信濃教育会の根幹である「信州教育」に関わることも大切に考える会員も多く、幅広い年代が互いに学び合いそれぞの強みが生かされるような研修も望まれる。教育研究所に関しては、土曜公開講座の周知をさらに図る必要がある結果となっている。講習・講座では、地域の特色を学ぶ体験型の研修、若手会員との協議からスタートした講座に魅力を感じる会員が多数おり、実施された講座がそのよさを伝えてきていると共に、さらに魅力ある講座を開設していくことが期待されている。加えて現場で直面している課題に対応できる内容を求める声もあり、多くの会員のニーズに応じることができる企画・運営を進めたい。

広報に関しては、自主的校内研修補助事業・短期視察研修補助事業等の補助・助成事業、教育研究論文・教育実践賞等、よさを実感している回答も多く、意義やよさをさらに広めていくような周知を図りたい。災害見舞金については、災害見舞金ネーミング選考委員会が設置され、より親しみやすいニックネームをつける取り組みが今年度実施されている。今後の周知につながる画期的な取り組みである。35%の会員が活用していると回答したホームページを中心としたSNSによる情報発信、今年度も9割近い会員が目を通していると回答した「信濃教育会報」を連携・活用させ、効果的な情報の発信を引き続き探りたい。

全県研究大会については、「自主的自発的な研究会」との方向は、広く認知され支持されていることが結果に表れている。大きな方向転換による興味深い内容や魅力的な講師との共同研究が魅力となっているが、開催校への負担を心配する声も引き続き寄せられており、学校や個人の主体性を大切にしつつ負担がかからないような運営、推進を今後も進めていく必要がある。信濃教育会としての役割の一つとして、意欲のある先生方を支える大事な柱として継続したい。

我々教師は、長野県の子ども達のために日々自らの職能向上に努めていくことが大切である。自ら求めて学ぶ姿勢を醸成していくための一翼を担うのが信濃教育会であろう。今回のアンケート全体から、信州教育の真髄を継承しつつ、引き続き時代に合わせた変革に挑戦する信濃教育会が期待されていること、世代間を繋ぐ、地域を繋ぐ信濃教育会を目指していくことが求められていることを知ることができた。

< 運 営 >

I 会員数(令6年7月1日 現在)

種 類	本 年 度	前年度比増減
正 会 員		
義務教育、教育関係機関	8,031名	-68名
高等学校、大学	262名	-1名
正 会 員 合 計	8,293名	-69名
贊 助 会 員	1,717名	-48名

II 執行、監査、議決、諮詢機関

一 理事会

開 催 月 日 及 び 会 議 事 項	会 議 の 結 果
第1回 令和6年4月12日(金)	
(1) 議事	(1)
① 第1号議案「定款第46条に基づく設置委員会委員の承認及び選任」に関する件	① 原案の通り承認又は選任
② 第2号議案「欠員役員候補者の選定」に関する件	② 【欠員役員候補者】 専務理事候補者 海沼 敦氏 常務理事候補者 原 文章氏 を各々選定した
③ 第3号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件	③ 原案の通り決議
(2) 報告	(2)
① 教育研究所 土曜公開講座、研究発表会の開催	報告の通り承認
② 公募による研究調査委員について	
③ 「教師塾A」の開催について	
④ 「教師塾B」の講座内容について	
⑤ 「『極意』伝承道場」について	
⑥ 信濃教育会の研修事業について	
⑦ フードバンク活動への支援	
⑧ 「学校代表メールアドレス帳」の販売について	
⑨ 教育研究所ガイド	
⑩ 講習・講座の基本方針	
⑪ 郡市教育会の総集会・総会・新任者教育懇談会の予定一覧表	
⑫ 「教育研究論文・教育実践賞」基本計画	
⑬ アフタヌーンセミナー	
⑭ 年間行事予定表について	
(3) 協議	(3)
① 常任委員会の構成	提案に基づき協議
② 令和6年度の基本方針及び事業計画・収支予算	
③ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会	
④ 全県研究大会の計画概要	
⑤ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会への参加	

<p>第2回 令和6年6月10日(月)</p> <p>(1) 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1号議案「令和5年度公益社団法人信濃教育会事業報告の承認」に関する件 ② 第2号議案「令和5年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件 ③ 第3号議案「保有債券償還に伴う新規債券 購入の承認」に関する件 <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 講習・基礎講座 ② 「教員助成事業」の応募状況 ③ 第47回長野県同和教育研究大会 ④ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会 ⑤ 「郡市教育会展」の開催について ⑥ 第4回理事会・常任委員会について <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 信濃教育会への入会状況と今後の会員増の取組 ② 第138回信濃教育会総集会北安曇大会について 	<p>(1)</p> <p>原案の通り承認</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>
<p>臨時 令和6年6月25日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1号議案「専務理事及び常務理事の選定」に関する件 	<p>① 専務理事 海沼 敦氏 常務理事 原 文章氏 各氏を選定</p>
<p>第3回 令和6年8月22日(木)</p> <p>(1) 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1号議案「信濃教育会館照明設備改修工事施工の議決」に関する件 ② 第2号議案「『倫理規程(案)』及び『コンプライアンス規程(案)』の議決」に関する件 ③ 第3号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件 ④ 第4号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件 <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育研究所研究発表会報告 ② 教育研究所募集要項 ③ 第21回信州“教育の日”山ノ内大会 ④ 購読の募集状況について ⑤ 「教員助成事業」の応募状況 ⑥ 校長対象オンラインカフェ、教師塾S等について <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度全県研究大会の推進予定および令和7年度の構想 ② 第138回信濃教育会総集会北安曇大会の反省 ③ 日本連合教育会長野大会について ④ 令和6年度信濃教育会会員アンケートの推進について 	<p>(1)</p> <p>原案の通り承認、決議</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>

<p>⑤ 令和6年度信濃教育会編集の教科用図書等に関する意見・要望のとりまとめについて ⑥ 教育研究団体補助金の決定について ⑦ 今年度の会員増の取組と今後に向けて ⑧ 信濃教育会への入会や退会の確認に係る対応について</p>	
<p>第4回 令和6年1月26日(火)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <p>① 郡市校長会への訪問について ② 教育研究所の応募状況 ③ 令和6年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ ④ 第21回信州“教育の日”について ⑤ 感謝状贈呈対象者名簿の提出について ⑥ 第76回日本連合教育研究大会茨城大会及び愛媛大会参加報告 ⑦ 令和7年度「極意」伝承道場の指導者推薦名簿の提出について ⑧ 令和7年度教師塾Bについて ⑨ 令和7年度臨地講習・基礎講座の予定 ⑩ 出版物(休み帳等)の採択状況 ⑪ 令和6年度第28回教育研究論文・教育実践賞の募集</p> <p>(3) 協議</p> <p>① 「役員候補者の選定」について ② 令和6年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ ③ 令和6年度事業の成果と課題 ④ 令和7年度予算編成方針(収入見込み) ⑤ 全県研究大会への参画について ⑥ 第139回信濃教育会総集会佐久大会基本構想 ⑦ 令和8年度 日本連合教育会長野大会組織(案) ⑧ 今後の事業について</p>	<p>(1)</p> <p>原案の通り決議、承認</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>
<p>第5回 令和7年1月21日(火)</p> <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「公益社団法人信濃教育会定款変更(案)の議決」に関する件 ② 第2号議案「信濃教育会旅費支給規程一部改正(案)の議決」に関する件 ③ 第3号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会事業計画(案)の議決」に関する件 ④ 第4号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会收支予算(案)の議決」に関する件 ⑤ 第5号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の議決」に関する件</p>	<p>(1)</p> <p>原案の通り決議</p>

<p>⑥ 第6号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件 ⑦ 第7号議案「臨時総会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の決定」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第77回日連教長野大会の開催に向けて ② 「信教窓口担当者」への謝礼と「窓口担当者会」開催について ③ 郡市校長会への訪問について ④ 令和7年度信濃教育会年間行事予定 ⑤ 教育論文・教育実践賞の今後の推進計画 ⑥ 令和7年度「極意」伝承道場について ⑦ 会報3月号掲載の代議員選挙公示について <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度講習・講座の概要 ② 令和7年度各種委員会委員長・委員候補者の推薦及び公募について 	<p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>
<p>第6回 令和7年3月1日（土）</p> <p>(1) 議事</p> <p>第1号議案「重要な職員の任免」に関する件 第2号議案「諸規程の制定、一部改正及び廃止の議決」に関する件</p> <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第28回「教育研究論文・教育実践賞」審査報告 ② 雑誌『信濃教育』の購読の勧め ③ 第76回日本連合教育会研究大会茨城大会参加について ④ 令和7年度教師塾B郡市開催日時一覧 ⑤ 第38回「今を生きる子どもの絵展」について ⑥ 令和7年度第1回理事会・常任委員会通知 <p>(3) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 常任委員会部会報告・協議 ② 令和7年度に向けて 	<p>(1)</p> <p>提案の通り承認・議決</p> <p>(2)</p> <p>報告の通り承認</p> <p>(3)</p> <p>提案に基づき協議</p>

二 監 査

（一）外部監査

監査 小川直樹 公認会計士

実施事項及び開催月日	実施の結果
<p>「令和6年度決算監査」</p> <p>令和7年4月21日（月） 令和7年5月16日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表及び損益計算書並びにその附属明細書並びに財産目録 ・貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表 	<p>① 報告に従い、監査 ② 監査報告書の作成</p>

(二) 監査会 監査

監 事 青木 昭 氏 安達永眞 氏

開 催 月 日 及 び 実 施 事 項	実 施 の 結 果
<p>(1) 期 日 令和7年6月3日(火) 「令和6年度事業及び決算」 (令和6年4月1日～令和7年3月31日)</p> <p>① 令和6年度事業 ② 令和6年度決算</p>	<p>(1)</p> <p>① 報告の通り承認 ② 報告の通り承認 ア 監査結果報告書作成 イ 6月24日開催の定時総会で 監査報告の予定</p>

三 総会

開 催 月 日 及 び 会 議 事 項	会 議 の 結 果
<p>定時総会 令和6年6月25日(火)</p> <p>(1) 議事</p> <p>[報告事項] 「令和5年度公益社団法人信濃教育会事業報告」の内容報告に関する件</p> <p>[決議事項] ① 第1号議案「令和5年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件 ② 第2号議案「公益社団法人信濃教育会 補欠理事2名の選任並びに専務理事及び常務理事候補者の選任」に関する件</p> <p>(2) 協議</p> <p>① 令和6年度信濃教育会事業及び予算について ② 令和6年度総会の年間計画</p> <p>(3) 報告・連絡事項</p> <p>① 第138回信濃教育会総集会北安曇大会について ② 教育研究所本年度の運営方針 ③ 講習・講座の計画 ④ 全県研究大会の概要及び令和5年度全県研究大会に向けて ⑤ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会について ⑥ 令和6年度教育研究論文・教育実践賞の募集 ⑦ 「教員助成事業」の申込み状況 ⑧ 第20回信州“教育の日”宮田大会について</p>	<p>(1)</p> <p>[決議事項] ① 原案の通り承認 ② 補欠理事名の選任 海沼 敦氏・原 文章氏・ 専務理事候補者の選任 海沼 敦氏 常務理事候補者の選任 原 文章氏</p> <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p>

<p>第2回 令和6年9月3日(火)</p> <p>※ オンラインによる開催</p> <p>(1) 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1号議案「信濃教育会館照明設備改修工事施工の承認」に関する件 ② 第2号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件 <p>(2) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度全県研究大会の推進及び令和7年度全県研究大会の構想 ② 第138回信濃教育会総集会北安曇大会の反省及び今後に向けて ③ 日本連合教育会長野大会について ④ 令和6年度会員アンケートの推進計画 ⑤ 令和6年度図書教材研究協議会アンケートについて ⑥ 教育研究団体補助金の決定について ⑦ 今年度の会員増の取組と今後に向けて ⑧ 信濃教育会への入会や退会の確認に係る対応について <p>(3) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育研究所研究発表会報告 ② 教育研究所募集要項 ③ 雑誌「信濃教育」の購読状況について ④ 第21回信州“教育の日”山内大会ハイブリット ⑤ 「教員助成事業」の応募状況 ⑥ アフタヌーンセミナー、教師塾S等について ⑦ 郡市教育会展開催について <p>(4) 意見交換</p> <p>テーマ：「信濃教育会の取組～ここがいい。こんなことができるとさらにいい～」</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 原案の通り承認 ② 原案の通り承認 <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p> <p>(4)</p> <p>テーマに沿って意見交換</p>
<p>第3回 令和6年12月3日(火)</p> <p>(1) 議事 なし</p> <p>(2) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和6年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ ② 令和6年度事業の成果と課題・今後の方向 ③ 信教全県研究大会への参画について ④ 令和7年度予算編成方針(収入見込み) ⑤ 第140回信濃教育会総集会佐久大会基本構想 ⑥ 今後の事業について ⑦ 認定法改正に伴う理事の定数について <p>(3) 報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育研究所の応募状況 ② 令和6年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ ③ 第21回信州“教育の日”について ④ 第76回日本連合教育研究大会茨城大会及び愛媛大会参加報告 ⑤ 令和7年度教師塾Bについて ⑥ 令和7年度臨地講習・基礎講座の予定 	<p>(1)</p> <p>(2)</p> <p>原案に基づき協議</p> <p>(3)</p> <p>報告・連絡事項を確認</p>

⑦ 出版物(教科書、休み帳等)の採択状況 ⑧ 令和6年度第28回教育研究論文・教育実践賞の募集	
第4回 令和7年2月4日(火) <p>(1) 議事</p> <p>① 第1号議案「公益社団法人信濃教育会定款変更(案)の議決」に関する件 ② 第2号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会事業計画(案)の承認」に関する件 ③ 第3号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会収支予算(案)の承認」に関する件 ④ 第4号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件 ⑤ 第5号議案「保有債券償還に伴う新規債権購入の承認」に関する件</p> <p>(2) 報告・連絡</p> <p>① 令和7年度「極意」伝承道場の受講証の配付について ② 令和7年度年間行事予定 ③ 会報3月号掲載の代議員選挙公示 ④ 災害見舞金のニックネームについて ⑤ 令和7年度雑誌『信濃教育』の発刊について ⑥ 教育実践誌「ふるさとの大地」発刊について ⑦ 「秘伝『信州教育の極意』」の購入について</p> <p>(3) 情報交換</p> <p>テーマ: 「年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組」について</p>	(1) ① 原案の通り議決 ②~⑤ 原案の通り承認 (2) 報告・連絡事項を確認 (3) テーマに沿って情報交換

四 常任委員会

開催月日及び会議事項	会議の結果
第1回 令6年4月16日(火) <p>(1) 協議</p> <p>① 常任委員会の構成 ② 令和6年度の基本方針及び事業計画・収支予算 ③ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会 ④ 全県研究大会の計画概要 ⑤ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会への参加</p> <p>(2) 報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所 土曜公開講座、研究発表会の開催 ② 公募による研究調査委員について ③ 「教師塾A」の開催について ④ 「教師塾B」の講座内容について ⑤ 「『極意』伝承道場」について ⑥ 信濃教育会の研修事業について ⑦ フードバンク活動への支援 ⑧ 「学校代表メールアドレス帳」の販売について ⑨ 教育研究所ガイド</p>	(1) 提案に基づき協議 (2) 報告・連絡事項を確認

<p>⑩ 講習・講座の基本方針 ⑪ 郡市教育会の総集会・総会・新任者教育懇談会の予定一覧表 ⑫ 「教育研究論文・教育実践賞」基本計画 ⑬ アフタヌーンセミナー ⑭ 年間行事予定表について (3) 部会 (4) 情報交換会 ○ 年度末からの会員増の取組と今後に向けて</p>	(3) (4) テーマに沿って情報交換
<p>第2回 令和6年5月9日(木)</p> <p>(1) 協議 ① 定時総会日程 議事・協議 ② 応募型研修助成事業について ③ 「極意伝承道場」について ④ 信濃教育会総集会の今後の開催見通しについて ⑤ ともに学ぶ仲間を増やす取組</p> <p>(2) 研修 テーマ：「信州教育の特色と信濃教育会への期待」 講師：筑波大学名誉教授 伊藤純郎先生</p> <p>(3) 報告・連絡事項 ① 令和6年度各種委員会委員長・委員の報告及び確認 ② アフタヌーンセミナーについて ③ 「教師塾A」の開催について ④ 『信濃教育』「Booklet信教」「ふるさとの大地」の購読状況 「学事関係職員録」の購入状況 ⑤ 「第28回教育研究論文・教育実践賞」募集について ⑥ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会について ⑦ 第3回理事会・常任委員会について</p> <p>(4) 部会 (5) 常任委員と郡市担当部長との懇談</p>	(1) 原案に基づき協議 (2) (3) 報告・連絡事項を確認 (4) (5)
<p>第3回 令和6年6月13日(木)</p> <p>(1) 協議 ① 定時総会報告・付議事項 ア 報告事項 「令和5年度公益社団法人信濃教育会事業報告」に関する件 イ 第1号議案「令和5年度公益社団法人信濃教育会決算の承認」に関する件 ウ 第2号議案「保有債券償還に伴う新規債権購入の承認」に関する件 エ 第3号議案「公益社団法人信濃教育会 補欠理事2名の選任並びに専務理事及び常務理事候補者の選任」に関する件</p> <p>② 信濃教育会への入会状況と今後の会員増の取組</p> <p>(2) 報告・連絡事項 ① 臨地講習・基礎講座 ② 「教員助成事業」の応募状況</p>	(1) 原案に基づき協議 (2) 報告・連絡事項を確認

<p>③ 第47回長野県同和教育研究大会 ④ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会 ⑤ 「郡市教育会展」の開催について ⑥ 第4回理事会・常任委員会について (3) 情報交換 ○ 「校長会と教育会が連携した教員の育成」 (4) 研修 テーマ…「心育む童謡・唱歌の世界」 講 師…山田真治氏 (松本短期大学教授) (5) 常任委員と担当部長との懇談</p>	<p>(3) テーマに沿って情報交換 (4) (5)</p>
<p>第4回 令和6年8月22日 (木) ※ オンラインによる開催 (1) 協議 ① 第2回臨時総会付議事項 ア 第1号議案 「信濃教育会館照明設備改修工事施工の承認」に関する件 イ 第2号議案「保有債券償還に伴う新規債券購入の承認」に関する件 ② 令和6年度全県研究大会の推進 ③ 令和7年度全県研究大会の構想 ④ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会の反省 ⑤ 日本連合教育会長野大会について ⑥ 令和6年度会員アンケートの推進計画 ⑦ 令和6年度図書教材研究協議会アンケートについて ⑧ 教育研究団体補助金の決定について ⑨ 今年度の会員増の取組と今後に向けて ⑩ 信濃教育会への入会や退会の確認に係る対応について (2) 報告・連絡 ① 教育研究所研究発表会 ② 教育研究所募集要項 ③ 第21回信州“教育の日”山内大会 ④ 購読の募集状況について ⑤ 校長対象オンラインカフェ、教師塾S等について ⑥ 第5回常任委員会の開催について ⑦ 第2回臨時総会の開催について (3) 部会</p>	<p>(1) 原案に基づき協議 (2) 報告・連絡事項を確認 (3)</p>
<p>第5回 令和6年11月26日 (火) (1) 協議 ① 令和6年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ ② 令和6年度事業の成果と課題・今後の方向 ③ 令和7年度予算編成方針 (収入見込み) ④ 信教全県研究大会への参画について</p>	<p>(1) 原案に基づき協議</p>

<p>⑤ 第139回信濃教育会佐久大会基本構想 ⑥ 令和8年度 日本連合教育会長野大会組織（案） ⑦ 年度当初の会員数の報告について ⑧ 今後の事業について ⑨ 認定法改正に伴う理事の定数について</p> <p>（2）報告・連絡事項</p> <p>① 教育研究所の応募状況 ② 令和6年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ ③ 第20回信州“教育の日”について ④ 感謝状贈呈対象者名簿の提出について ⑤ 第76回日本連合教育研究大会愛媛大会及び山口大会参加報告 ⑥ 令和6年度「極意」伝承道場の指導者推薦名簿の提出について ⑦ 令和6年度教師塾Bについて ⑧ 令和6年度臨地講習・基礎講座の予定 ⑨ 出版物（教科書、休み帳等）の採択状況 ⑩ 令和5年度第27回教育研究論文・教育実践賞の募集 ⑪ 佐久間象山肖像画高遠美術館寄託について</p> <p>（3）意見交換</p> <p>　　テーマ：「教職員の研修に対する自主性・主体性を育む」</p> <p>（4）研修</p> <p>　　テーマ：経営マネジメントについて 講師：日色 保氏（日本マクドナルドホールディングス取締役社長）</p>	<p>（2） 報告・連絡事項を確認</p> <p>（3） テーマについて意見交換</p> <p>（4）</p>
<p>第6回 令和7年1月21日（火） ※オンラインによる開催</p> <p>（1）協議</p> <p>① 第4回臨時総会付議事項について</p> <p>　ア 第1号議案「公益社団法人信濃教育会定款変更（案）の議決」に関する件</p> <p>　イ 第2号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会事業計画（案）の承認」に関する件</p> <p>　ウ 第3号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会収支予算（案）の承認」に関する件</p> <p>　エ 第4号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み（案）の承認」に関する件</p> <p>　オ 第5号議案「保有債券償還に伴う新規債権購入の承認」に関する件</p> <p>② 令和6年度第4回臨時総会 ③ 令和7年度講習・講座の概要 ④ 令和7年度各種委員会委員長・委員候補者の推薦及び公募</p> <p>（2）報告・連絡事項</p> <p>① 第77回日連教長野大会の開催に向けて ② 「信教窓口担当者」への謝礼と「窓口担当者会」開催について ③ 郡市校長会への訪問について</p>	<p>（1） 原案に基づき協議</p> <p>（2） 報告・連絡事項を確認</p>

<p>④ 令和7年度信濃教育会年間行事予定 ⑤ 教育論文・教育実践賞の今後の推進計画 ⑥ 令和7年度「極意」伝承道場について ⑦ 会報3月号掲載の代議員選挙公示 (3) 部会 (4) 情報交換 　　テーマ：年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組 (5) 常任委員と郡市担当との懇談</p>	(3) (4) テーマに沿って情報交換 (5)
<p>第7回 令和7年3月1日（土）</p> <p>(1) 協議 ① 委員会報告・協議 ② 「令和7年度信濃教育会関係事務引き継ぎ事項」の確認</p> <p>(2) 報告・連絡事項 ① 第28回「教育研究論文・教育実践賞」審査報告 ② 雑誌『信濃教育』の購読の勧め ③ 第76回日本連合教育会研究大会茨城大会参加について ④ 令和7年度教師塾B郡市開催日時一覧 ⑤ 第38回「今を生きる子どもの絵展」について ⑥ 令和7年度第1回理事会・常任委員会通知</p> <p>(3) 教育会長会 ① 各教育会の課題</p>	(1) 原案に基づき協議 (2) 内容についての周知及び確認 (3) テーマに沿って情報交換

五 幹事会

開催月日	会議事項
<p>第1回 令和6年4月16日（火）</p>	<p>※ 常任委員会との合同開催</p> <p>(1) 協議 ① 幹事会の構成 ② 令和6年度の基本方針及び事業計画・収支予算 ③ 第138回信濃教育会総集会北安曇大会 ④ 全県研究大会の計画概要 ⑤ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会への参加</p> <p>(2) 報告・連絡事項 ① 教育研究所 土曜公開講座、研究発表会の開催 ② 公募による研究調査委員について ③ 「教師塾A」の開催について ④ 「教師塾B」の講座内容について ⑤ 「『極意』伝承道場」について ⑥ 信濃教育会の研修事業について ⑦ フードバンク活動への支援 ⑧ 「学校代表メールアドレス帳」の販売について ⑨ 教育研究所ガイド ⑩ 講習・講座の基本方針 ⑪ 郡市教育会の総集会・総会・新任者教育懇談会の予定一覧表 ⑫ 「教育研究論文・教育実践賞」基本計画 ⑬ アフタヌーンセミナー</p>

	<p>(14) 年間行事予定表について</p> <p>(3) 部会</p> <p>(4) 情報交換会</p> <p>○ 年度末からの会員増の取組と今後に向けて</p>
第2回 令和6年4月24日 (水)	<p>(1) 協議事項</p> <p>① 信濃教育会の課題について整理し、今後の具体的な取組について</p> <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <p>① 第138回信濃教育会総集会北安曇大会について</p> <p>② 常任委員会組織、第2回理事会・常任委員会</p> <p>③ 信州“教育の日”山内大会について</p> <p>④ 短期視察研修補助、自主的校内研修補助の応募状況、学び続ける教師への助成事業</p> <p>⑤ 第28回教育研究論文、教育実践賞募集要項</p> <p>⑥ 第3回幹事会について</p>
第3回 令和6年5月29日 (水)	<p>(1) 協議事項</p> <p>① 信濃教育会の入会状況、雑誌「信濃教育」購読状況</p> <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <p>① 定時総会協議事項について</p> <p>② 令和5年度事業報告・決算について</p> <p>③ 信州“教育の日”山内大会について</p> <p>④ 全県研究大会について</p> <p>⑤ 「自主的校内研修補助事業」「短期視察研修補助事業」「学び続ける教師への助成事業」の申込み状況</p> <p>⑥ 第1回アフタヌーンセミナーへの参加状況、教師塾Aへの参加状況</p>
第4回 令和6年8月21日 (水)	<p>※ オンラインによる開催</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>① 令和6年度会員アンケート実施について</p> <p>② 信濃教育会総集会について</p> <p>③ 新たな信州教育の創造に向けた信濃教育会の取組について</p> <p>④ 「【校長対象】オンラインカフェ」について</p> <p>⑤ 日連教愛媛大会に参加しての感想</p> <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <p>① 第4回アフタヌーンセミナーについて</p> <p>② 令和6年度図書教材研究協議会アンケートについて</p> <p>③ 教育研究所研究員募集について</p> <p>④ 信州“教育の日”山内大会について</p> <p>⑤ 短期視察研修補助事業・自主的校内研修補助事業・学び続ける教師への助成事業の応募状況</p> <p>⑥ 教育研究団体補助金の決定について</p> <p>⑦ 日本連合教育会長野大会について</p> <p>⑧ 教育研究団体との教育懇談会実施計画</p> <p>⑨ 第2回臨時総会の審議・協議事項</p> <p>⑩ 会員増・購読増について（4月以降の状況）</p>

第5回 令和6年1月7日 (木)	<p>(1) 協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 信濃教育会会員アンケートの結果報告・審議 ② 令和6年度事業反省と令和7年度事業の方向 ③ 「【校長対象】オンラインカフェ」の反省と今後について ④ 信濃教育会の役割について <p>(2) 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第6回アフタヌーンセミナーについて ② 第28回教育研究論文・教育実践賞について ③ 第4回理事会・第5回常任委員会及び第3回臨時総会の審議・協議事項 ④ 第6回幹事会について
第6回 令和7年1月14日 (火)	<p>(1) 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度事業計画案、予算案、議案提案書 ② 令和7年度「講習・講座」について ③ 令和6年度全県研究大会のまとめと次年度の方向 ④ 来年度の信濃教育会のあり方について（グループ協議） ⑤ 幹事会に参加しての感想、信濃教育会への提言 <p>(2) 諸報告・連絡等</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第5回理事会、第6回常任委員会協議事項 ② 第4回総会審議・協議事項について ③ 令和7年度各種委員会の構成・推薦 ④ 令和7年度「教員助成」について ⑤ 郡市校長会「教育会の時間」訪問資料について ⑥ 令和7年度信濃教育会年間行事の予定

六 事業推進連絡委員会

開催月日及び会議事項	会議事項
第1回 令和6年6月3日 (月)	<p>(1) 協議・依頼事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事業推進連絡委員会任務の確認 ② 令和6年度事業推進について ③ 第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会について <p>(2) 情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 年度当初の会員の報告・退会届について ② 会費徴収システムの改修検討について ③ 新公益法人制度について ④ 教育会の運営上の問題点・課題
第2回 令和6年9月9日 (月)	*オンラインによる開催
第3回 令和7年2月25日 (火)	<p>(1) 協議・依頼事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 令和7年度事業計画について

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">② 令和7年度予算について③ 信濃教育会関係引継ぎ書類等④ 教育研究論文・教育実践賞⑤ 感謝状の贈呈 <p>(2) 情報交換</p> <ul style="list-style-type: none">① 教育会事務局運営上の問題点・課題② 信濃教育会に対する意見・要望 |
|--|---|